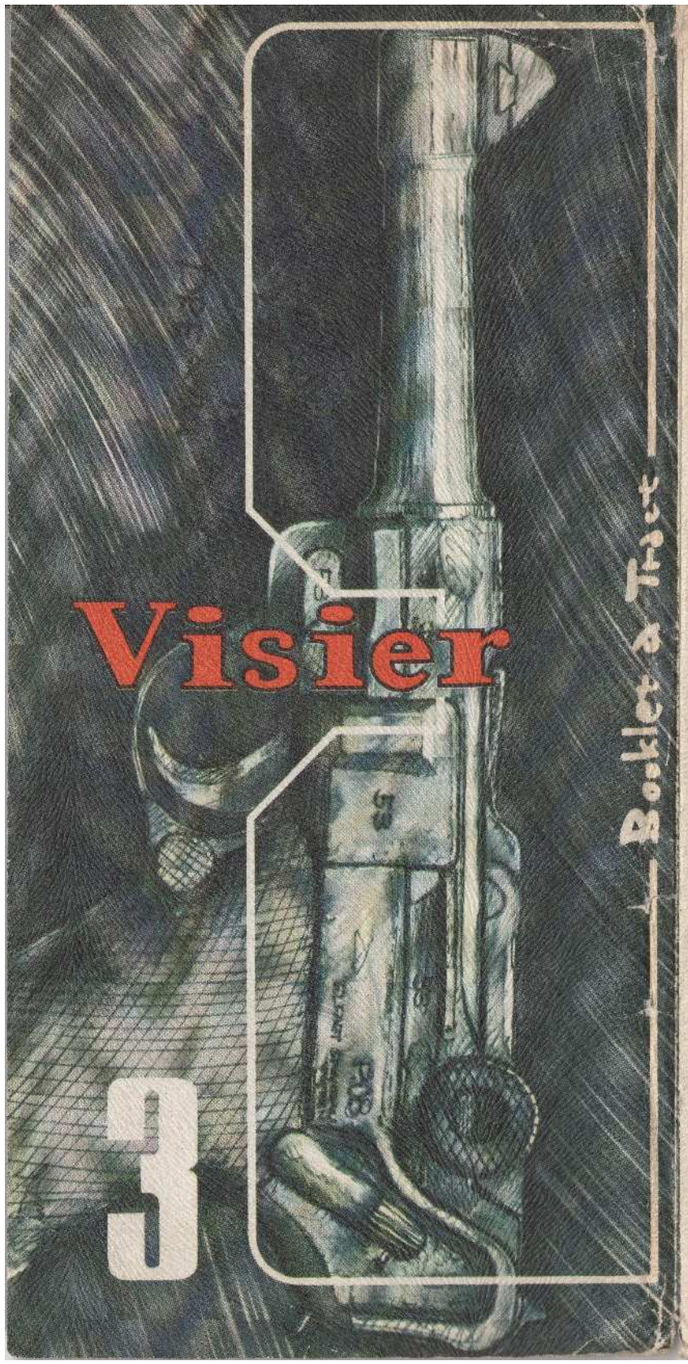



MODEL·GUNS & ACCESSORIES **MGC**

EDITORIAL STAFF

—目次—


ＭＧＣ創立６週年
ＭＧＣの歴史
**ＭＧＣ事件について**
ＭＧＣ一十条事件特報
荒井新一郎氏への公開状
くたばれＭＧＣ
**ワルサー訪問記**
モデルガンの出来るまで
ガンと女性の関係
にゅうもでる
**イミテーションの分析**
ボンドショップ日記
**ずばりマニヤの性格占い**
カスタム・フォー・ユー
あなたが作るページ
ブラウン管のスパイ達
**照門から見たスクリーン**
あなただけに教えるページ
スタッフ紹介
クイズの御詫び
編集後記
おく付、表紙の言葉

# ＭＧＣ創立６週年

ＭＧＣが発足して早くも６年、常にモデルガン界のパイオニアとして、“より秀れたモデルガン”をつくり出すことに努力してきたＭＧＣ。ピースメーカーからコルトスペシャルに代表される初期の作品。コマンダーの冒険からＶＰ、チーフスペシャルをへてブローニングに至る迄の意欲作の数々。その何れもが、独創的なアイデアを基に、血の出る様な努力と研究によってつくられた事を、皆様は御存知でしょうか？
それは実に険しい日々の連続だったといって決して過言ではありません。モデルガン自体を頭から否定する人達は勿論の事、ＧＵＮの魅力を感じ乍ら、ＭＧＣを理解し得ない人々を含めて、多勢の人々から非難が集中され、私達を困惑させました。

併しＭＧＣは、今立派に皆様の前に、成長した姿をみせております。これは一重に、全国到る処で、ＭＧＣに声援を送って下さったファンの方々のお蔭げであることは、申す迄もありません。

1966年、この年からＭＧＣは大きく生れ変ります。

ＭＧＣボンドショップの誕生と、画期的な新製品Ｓ＆Ｗセンチニアルの発売を機に、いよいよ、ＭＧＣの実力を世に問う時が来たのです。今後発表されるＭＧＣの新製品は益々その独創性を取り入れて、本当の“夢のモデルガン”として、次々に皆様の前に登場する事でしょう。過去６年の豊富な研究と、たゆみない努力が“新しい趣味”としてのモデルガンを完成させていくのです。何卒６週年を迎えたＭＧＣに、御期待下さい。

**本年秋、ＭＧＣ創立６週年を記念した数々の催しや、ファンへのサービスが相次いで行われます。詳細は、ＭＧＣ機関紙ビジェールを御購読下されば、その中に追って発表いたします。**

ＭＧＣガバメント　発火モデル登場

## 新しい趣味としての安全なモデルガン

## ＭＧＣ製品

# “全国ブレーンショップ”

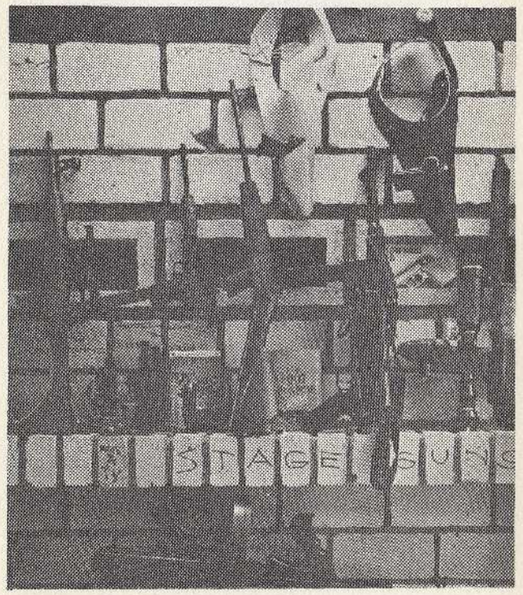
## 加盟店

**関東地区**

| | |
|---|---|
| 北海道地区（２店） | “光”模型 |
| | 釧路ロータリー |
| 東京地区 | MGCボンドショップ |
| | MGCサービスセンター |
| 横浜地区 | 千代田マック |
| 甲　府 | カヤノ科学模型 |
| 清　水 | フレンド・ホビー |

**関西地区**

| | |
|---|---|
| 名古屋 | オガワ屋 |
| 京　阪 | やまもと |
| 神　戸 | 菊水模型店 |
| 広　島 | 山田商会 |
| 四　国 | 太田理工社 |




以上の12店は、ＭＧＣ製品取扱いの“全国ブレーン・ショップ”として、新たに発足いたしました。

新製品は、勿論一斉発売（全国統一価格）、アフター・サービスも万全の備えで、皆様の御来店を、お待ちしております（ビジェールもここでどうぞ）。

但し、これら12店では、いかがわしいイミテーション・モデルは、一斉取扱っておりません。

## ●待望のワルサーＰ38
## 今秋発売決定!!

# MGCの歴史（その3）

NHK・TVの“生活のちえ”でMGCが、“ガンに生きる人達”と紹介されたのも、この頃であった。表にNHKの取材車が止めてあるのを、近所の人達が不安そうな顔をして眺めていたのを覚えている。尤もそれもそのはず、当時の萩中町にあった協会製作所では、連日、夜半から夜更けにかけては、必ず試作のモデルガンの銃声が鳴り渡り、時には、夜通し響く機械の音に、近所からは苦情と非難の連続で、すっかり、厄介者扱いにされてしまっていたのだから……。確かに我々の意欲というか、スタナミは驚くべきもので、昼も夜も、深夜から明方迄、のべつまくなしにモデルガンに対する研究にあけくれ、徹夜などはあたりまえ、時には連続の徹夜に今日は何日の何曜日だか、全くわからない時さえもしばしばあった。余談になるが、当時徹夜仕事をし乍ら聞いたFENからの、モダンジャズの数々は、やがて我々を、完全にダンモファンに成長させ、現在、ラジオ東京の人気番組、深夜の“MGC、モダンジャズ・コーナー“を提供する迄になって仕舞ったのである。

（取材に来たNHKの車の前で）

さて36年の春もたけなわ4月には、待望のアメリカから初めて本格的なオートマチックとして、ヒューブレー社のコルトオートマチックが大量にお目見えした。今考えるとこのオートマ、本国のアメリカでは、売行き余りパッとせず、日本からのせっかちな御招待に、あわてて恐る恐るやってきたんだが、何せ我が国は、末層有のガンブーム、勿ち人気のまと、併し我々は首をひねった。待ち望んだものにしては、みればみる程つまらないものだ。第一、外装の箱にしてからが、製薬会社のPRではないが、「貴方に直接お売り出来ないのが残念です」とばかり、真白。製品の名前さえ書いてない、引金を引けばパシ、パシ、どうやら巻焔硝を使用するらしい。この巻焔硝という代物、どうにも射っているうちに、スライドの上へニョキニョキ出てくるのが、ぶちこわし、何んのことはない、パシ、パシ、のニョロ、ニョロで様にならない、尤も元来子供のオモチャ用につくったのだから、これが当り前といえばそれ迄、でも本物の拳銃を見た事が幾らないからといってこれを“コンクション”です、といって大人に薦められますか、少くとも「ガンのもつ魅力」なんてお世辞にもいえない。せめて弾倉位ついていれば、と惜しいやら、情ないやらで頭はカッカ。併しそこで持前の改良案が暫くこのオートマチックとニラメッコをしているうちに出来上ったんだから、普段の努力はしておくもの。

かくして、このオートマ内臓のパーツはハンマーを残して全て捨てられ、フレームやスライドにきびしいメスが入れられ、あちこちを削り取られた末、真鍮にメッキをした手づくりの弾倉と、同じく真鍮でつくったブリーチに薬莢などが作られて、見事に生まれかわったものとして完成されていった。その名は“コルト・スペシャル”。その頃のファンの方なら御存知だと思うが、色も白銀色からブラックになり、スライドを引く度に、弾倉と装てんした空薬莢が宙に舞う有様に、当時のファンは唖然として、その全くの生れ変り様に驚いた事と思う。

ブラックホーク・ピースメーカーのリヴォルバーから、このコルト・スペシャルのオートマチックの出現で、我がMGCは大いに名を上げたのは事実であった。そして発足当初からの機関誌“MGC”は、回を重ねる毎に反響を呼んで4号を数える頃は、定着した会員の数は全国で8,000人、MGCの前途は洋々と開けている様にさえ思われたのは、当然だろう。事実我々も、ここに一安心した訳だ。この一安心というのが何事によらずいけないことで、やれやれという気のゆるみがやがては、失敗のもととなるのはいろんな例がある。

併しまあこの時分は、何分にも勢いに乗っていて、まだまだ上昇は続いていた。

又当時、中田商店にしてからも大繁昌であり、次のより有効な手を考えるより、今に都心に大ビルを建設する。なんていたずらに有頂点になっていたし、マルホコルト商会、丸郷商会が、相次いで玩具屋の店先へピストルを並べ始め、今迄食糧品の罐詰めを商っていた江原商店も、いち早くこの戦列に転向した組であった。そして有楽町のクラブ“チャイナタウン”で一従業員をしていた、現雑誌“ガン”発行人、荒井氏も、「国際ガンクラブ」と名乗って、通信販売に名乗りを上げてきた。

発足当時の「国際ガンクラブ」はその入会申込書や趣意書が、MGCのそれと全く同じものであったことで我々を驚かした。

今にして思えば、MGCが永年苦心して製作してきたPPK初め、ブローニング、チーフスペシャル等を、いとも簡単に、「真似してつくれ」と号令を下している荒井氏をみるにつけ、昔から人の真似は上手な方だったとほとほと感心する次第だ。

併し当時は、「国際ガンクラブ」眼中になしと、全く問題にしない位MGCの進出は、日の出の勢いの如く思えたのは先程も述べた通りである。

5月、それを裏付ける様に、MGCの銀座進出が決まった。ところは数寄屋橋阪急デパートの一階、「MGCガンコーナー」はみち行く銀座マンを、アッと云わせる様な立派なものとして、登場したのである。　（つづく）

# MGC事件について

## モデルガン愛好者の皆様へ

**ＭＧＣ協会の代表者達が、モデルガン研究のため、昭和39年秋に世界を廻った。その時拳銃を入手したが、その目的はあくまでモデルガンの研究用としてであった。　帰国した翌年より「暴力追放」の世論が高まり、拳銃を所持する事が厳しく取締られるようになったのは、ご承知の通りである。**

**又、元社員の山田英雄が、サービスセンターで古い実物を売るという事件を起こし。　ＭＧＣではＰ－38やルガー等のモデルガンの発売時期を前に、持ち帰った拳銃を警視庁に任意提出したところ、これらの事件を、一部のマスコミが誤報を交えてセンセーショナルに扱った。**

**われわれＭＧＣ協会は、この事件を卒直に反省するとともに、これを、機会に私達の考え方をのべて、大方のご批判を仰ぐものです。**

現在の日本で拳銃ほど不当に冷遇されているものはないだろう。

本来実物の拳銃の目的は、より遠く、より速く、より正確に弾頭を発射することにある。従って拳銃は、この目的のため、何世紀にわたり、秀れた銃工たちにより作りあげられ、幾多の戦争という試練を経て、ほとんど完璧なまでに進歩をとげた。いいかえれば拳銃は、その時代の最高の機械工業技術を駆使して製作されたので、その時代の機械文明を背景とし、最とも複雑な機構を、より合理的に小さくコンパクトして、持つ者を魅了し尽すほどに素晴しいメカニズムと、美しい機能美が集約されているといっても過言ではあるまい。このように発達した拳銃は、その本来の目的のために使用される必要がなくなった現代社会でも、他の銃器とは、また違った愛好者を数多く生み出したのである。

すでに世界中で何十万、いな何百万もの愛好者がおり、その中でも半数のマニヤ達は、拳銃を弾の発射する道具として考える以前に、本来武器として作られた物のみが持つその目的とは別の魅力に引かれているので、殊更拳銃を撃つ必要はないのである。そうなると、かえって弾頭を発射するという行為は、拳銃本来の目的であるにかかわらず、このような魅力にとりつかれた人々には、障害とすら感じられるようになる。事実拳銃を撃った経験のあるものなら解るはずであるが、楽しさよりも、その結果の恐しさの方を、より良く知っているからである。

海外では、このように魅力ある拳銃を純粋に愛好することが出来、最近では特にその傾向が強まる反面、日本国内ではＴＶや映画の中だけに拳銃が氾濫し、その関心が高まりつつあるにも拘らず、単に小さいというだけで、“銃刀法”をもってその所持を禁止すればこと足りるということは、根本的に考え直す時機が来ているのではないだろうか。

**われわれの反省**

モデルガンの完成、わたくしたちＭＧＣは、この６年間あらゆる批判を受けながらもこの目標のために、頑張って来た積りです。それは只単に日本のマニヤだけに満足のいくものを作るというだけではなく、世界のガンマニヤにも愛される、より高度なモデルガンの製作ということのための努力なのです。

しかし、それは一口に言って大変な仕事なのです。莫大な研究費を必要とするこの仕事のために、直売店を持って経営を合理化したところ、山田という不心得なものを出してしまいました。また、本当に秀れたものを作るには、なによりも先ず実物に接して、その中に秘められた、秀れたものを引出すことからしなければなりませんが、日本でそれをすることは、先ず不可能です。去る39年に世界の拳銃を尋ねて外国へおもむいたのはそのためです。はじめて手にしたＰ38、ルガー、それは夢にみた以上の素晴しいものでした。なんとしてもこのモデルガンを作りたい。そしてモデルガンの存在価値を広く人々に訴えたい。

私たちが持っていたＰ38、ルガーは、その試作・研究を終えた５月２日、法律的に言えば「任意提出」という形で、警視庁保安課へ提出したのです。一部のマスコミはこの事実をオーバーに書きたて、なかには逮捕されたなどと言う事実無根のデッチ上げを敢えて発表するなど、その無責任ぶりは、言論の暴力マスコミの実態をまざまざと感じさせたものでした。

しかしわれわれも、どのような理由があったにせよ、その行過ぎや、間違ったことに対しては、深く反省し、この仕事の責任の重大さをあらためて自覚し、ここに誌上から、深く皆様にお詫び申し上げ、二度とこのようなことをくり返えさないことをお約束致します。

## ＭＧＣ協会からのお答へ

**問　モデルガンとはどういうものですか**

答　実物でもオモチャでもありません。　本来拳銃は弾を飛ばす事や、その威力ばかりに気を取られていて、銃工達が長年苦労して合理化した努力のあと、素晴しいメカニズムやその機能美を見のがしていたのではないでしょうか。　武器として作られたものだけが持つ、本能をも引きつけてしまう何かを見つけだし、それだけを再現したものがモデルガンです。だから。モデルガンは発射機能は必要ないのです。　これがモデルガンに対するＭＧＣの考え方であるとともに、この言葉はＭＧＣによって初めて唱えられたものなのです。

**問　ＭＧＣのモットーは**

答　一人でも多くの愛好者の皆様に、より良いモデルガンを楽しんでいただき、そして趣味としての正しいモデルガンのあり方を広く普及し、近い将来世界の人々にも愛好されるような完成されたモデルガンをつくることがＭＧＣのモットーです。

**問　実物が無ければ良いモデルガンは出来ないのか**

答　出来ないわけではありませんが、より高度の、より完成されたモデルガンを作るためには、是非実物を参考にしたいものです。外国に行き、充分研究し、持ち帰らなくとも他では真似できないものを製作して、皆様に満足していただけるようにしたいと考えております。

**問　Ｐ－38やルガーを提出したと聞いたが、いつ製品化されるのか**

答　今年の秋に発売が決定しているＭＧＣ　ワルサー　Ｐ－38は、三種類のそれぞれ違ったタイプのものを製作します。

ルガーも、それに続いて数種の企画を進めております。　そして、今後は豊富なアイディアを生かしたカスタムモデルも発表する予定です。（秋に発売のニューモデルの詳細は、ビジェール４号に発表）

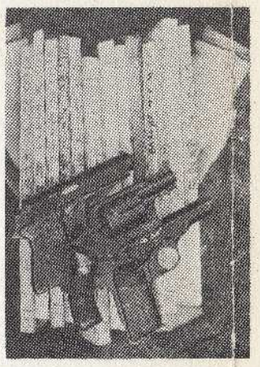
**問　今後モデルガンが禁止される懸念はないのか**

答　モデルガンを本当に愛好する人々が他人に迷惑をかけず、又法律の枠の中で製作されるものなら、禁止されることはないと思います。モデルガンは、今にもまして安全で秀れたものでなくてはならないことは、言うまでもありません。

# MGC—十条事件特報!!

## 危険なイミテーションの裏にひそむ以外な事実

**MGCが、新しいモデルガンの確立を叫んで早くも6年。着々と前進を続けるその行手に、突然おそいかかった黒い霧。その正体は意外にも……**



驚くなかれ、十条金型は国際ガン出版と組んで、MGCのすべての製品を盗作していた！
写真はスパイから買取った問題の設計図。

**改造銃、ボンドショップに**

四月二日午後二時頃、ボンドショップの客足が止絶えた時、学生らしい少年がモデルガンの修理に訪れた。担当のものがそれを手に取って驚愕した。持ち込まれたモデルガンは、立派？な拳銃であったのだ。もちろん改造したものだが、どうやら簡単に加工できたものらしい。

加工可能なモデルガンを、MGCが製造する筈がない、製造マークも解らず、いかにも秘密めかした製品で、その外観はMGC製品とそっくり、MGC製と感違いして修理に持参したのも無理はない。本人には事情を話して、かわりのMGC製品を渡して、改造銃は直ちに警視庁に提出した。

**下請工場の十条金型製作所が密造！**

銃身内の"安全策"(MGCのパテント)を除く各部分は、MGC製品と寸分違わず、このイミテーションは、完全にMGCの設計図より製造したことは、疑う余地がない。一同が憂慮している矢先、第二の改造銃を三日目にまた二丁持って来た客があった。

そしてその夜、十条金型製作所の工員と称する男達(二名、特にその名を秘す)が、十条金型はMGCのイミテーションを生産していると通報してきた。

一応名の通った金型屋が、御得意先の製品を盗作するなど、常識では考えられないので、その点を追求すると、五日、金型図面などの製造証拠書類十二点を持参したので、報償金を支払って買い取った。

書類を検討したところ、その密造は事実であり、既成品約千丁、未完成品約三千丁という驚くべき数のモデルガンのイミテーションが製造されている事が解った。

**すでに大半は市場か？**

十条金型は、昭和四十年の十二月頃から、イミテーションの既成品千丁を、すでに国際ガン出版株式会社社長、荒井新一郎氏を通じて雑誌「ガン」により、全国に通販され、また江原商店(CMC)、堀内商会、中田商店、ホビース商会、丸郷商店ですでに、その殆んど全部を市販している事実がわかった。

もしかりに、この大量のSWチーフスペシャルが、銃砲であったなら、これは由々しい大事だといえよう。前からMGC製品を真似た、いわゆるニセモノが出廻っていることは、私達も知っていた。しかし、それは、MGCが金型を作らせていた十条金型製であったということに、全く驚かされた。

元来、金型屋というものは、御得意先との打合せに従って、その指示通りの金型を作るのが仕事である。その大切な図面の管理や秘密保持という事は、いいかえれば金型屋の常識であり、義務であるべきはずである。例え一つの金型をつくり終わったとしても、金型はどちらかといえば、こわれ易いものではあるし、あとの修理に関しての責任もあるはずである。

更にこの十条金型へは次の製作のための金型図面さえ渡してあるのだ。その金型屋が、発注先のMGCに一言のことわりも無しに、こともあろうに秘密でニセモノをつくり、しかもこれが銃砲であるとしたら……。

**MGC協会、正式に抗議**

四月五日、十条金型工員よりこれらの事実を裏付けた、いろいろの証拠物件を入手した。われわれは直ちに、北区東十条2の9にある十条金型工場に抗議すべく赴いた。

しかるに十条金型の田辺権三所長は不在であり、応待は管理人の老人にまかせたままだった。そこで、水かけ論を回避するため、MGCの金型図によって製造された金型を証拠としてあずかり、朝十時に話合うことを約束した。

その後、国際ガン出版株式会社社長荒井新一郎氏に対しても抗議して、十時にうちあわせた場所で待ったが、十条金型はそこへ来ないどころか、金型を強盗にとられたなどと、馬鹿気たことを王子署に申告した。

**銃砲と断定**

MGC製作所では早速、市販されているこれらのモデルガンの一丁を買求めて、改造したところ、きわめて容易に銃口がぬけ、これに弾頭をつけ、市販の紙火薬をつけて発射したところ、1メートル離れたところから、厚さ約1センチの厚板を完全に貫通する事実を確認したのである、そこで直ちに

**十条金型製SWチーフスペシャルを銃砲とする根拠**

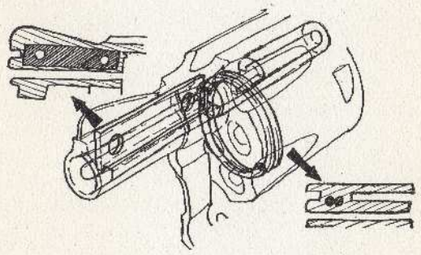
銃砲とモデルガンの限界、それは火薬又はガス及び空気の圧力を利用して、金属製の弾頭を発射する事が出来るか否か、という事であります。(銃砲刀剣類所持等取締法 第二条一項)

そして、本来はその機能を持たない物であっても、一般工具類を使って若干の加工をする事に依り、銃口より1メートルの距離に置かれた1センチ厚の木板を貫通する威力を持つ事が出来る物は、法的に銃砲と云えるのです(昭・27 5月30日付、防発60号「銃砲の質疑について」)

従って、これ等の改造を防ぐ"安全策"を考慮してある物だけが、法律でモデルガンとして認められているのです。

この安全策の最たる物が、銃身内及び薬室内に超硬鋼材を固定し、ドリル等の工具類を一切受付けない様にする方法で、これが、モデルガンの生命とも云えます。(MGC実用新案)

この点で十条金型製のチーフスペシャルは、この実用新案を無視し、銃身内に鋼材を鋳込んではありますが、その材質はただの鉄板にすぎず、その重要性を考慮せず、ただいたずらにその形状を真似ただけであるために、ドリルで簡単に銃身に穴を開ける事が出来、同様にシリンダーも加工する事に依って、更にその威力は強まり、上記の法律に云うモデルガンの限界を超える威力を持つ物として、銃口を加工しないままの物でも、法的には銃砲と見なされる物であります。



これら、十条金型で製造しているモデルガンの危険性を詳細に記した意見書を、警視庁あて提出した。

**安藤章弁護士、十条金型を告発**

メーデー事件の主任弁護人として活躍された安藤章弁護士に、この件を相談した所、ことの重大さに驚いた安藤氏は、直ちに警視庁保安課に出頭し相談の上、社会正義をまもる弁護士の立場から、四月十四日、十条金型製作所田辺権三所長を、武器等製造法違反、銃砲刀剣類等取締法違反で告発、その調査を依頼した。

## 日本高級玩具小売商組合長

# 荒井新一郎氏への公開状

日本高級玩具小売商組合　荒井新一郎殿

あなたが、雑誌「ＧＵＮ」発行のかたわら、日本高級玩具商組合をつくられたのは、確か昨年十一月だったと思います。

銃器専門誌の発行人が、何故モデルガンをつくったり販売したりしなければならないのかは、あなたが四月六日に言われた、「アメ横ガン取扱い業者に泣きつかれたから始めた迄だ」の一言で説明されていましたから、こゝではそれ以上は追求致しません。

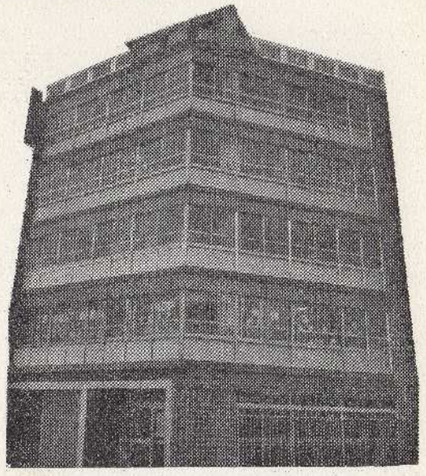
しかし、それだからといって、私たちＭＧＣが、何年も血のにじむ様な努力を重ねて開発してきたモデルガンと、まったく同一のイミテーションを、一種類ならず全種類つくって販売しようとする神経は、一体どう説明されるのでしょうか。

私たちのつくっているモデルガンは、決して実物そのまゝのニセモノをつくっているのではないことは、コルトコマンダー以来のどの製品をとってみても良くおわかりのことでしょう。オートマチックに取り入れてある前撃針方式や、アームとスプリングによる作動の方法は、すべて私たちが研究開発したものですし、リボルバーのパテントも取得したものが２種類、申請中のもの一種類、その大きさにしても、ＰＰＫやチーフスペシャルは何れも独自の大きさに工夫されてつくられたものです。ダイカスト工法を徹底的にマスターして、実物でなくオモチャでもない、まったく新しい安全なものをつくろうと努力しているのが現状です。

日本高級玩具小売商組合　荒井新一郎殿

実物の禁止されている日本に、どれだけの「ガンマニア」がいるか、あなたも「ＧＵＮ」という立派な雑誌をお出しになっているのですからよくおわかりのことだと思います。そしてその確かな考えの上に立って、あえてモデルガンの世界に足をふみ入れるのでしたら、何故もっと正々堂々と、拳銃のモデルをつくると、全国のガンマニアに発表しないのですか。こそこそと、まるで泥棒猫のようになってＭＧＣのニセモノづくりに精を出し、「文句があるなら正式に訴えなさい」とはなんですか、裁判になれば何年もかかるし、その間に売りまくるという考えも、私たちの耳にすでに入っています。

かって、あなたのところの「ＧＵＮ」誌上で「モデルガンのメッカ、ＭＧＣ訪問記」の一文を取り上げたことすらあるではないですか。その中で私たちが如何にしてモデルガンをつくり育ててきたか、確かあなたも取材に来られたはずですが。その時すでにまさか現在モデルガンをつくるための、下調べや、スパイ行為をしていたのではないでしょうね。



日本高級玩具小売商組合　荒井新一郎殿

あなたの組合が発足したとき、その規約の中に、あなたはこう書いているはずです。「われわれは、不良玩具の一切を排除し、ＭＧＣ製品のすべてを店頭から追放する」。ところが、それから未だ数ヶ月しかたっていない現在、その不良品ときめつけたＭＧＣ製品とまったく同じものを販売するというのは一体、どうなっているのですか。利益のためには、主張も変わるのか、或いはその時々によって、まったくの出鱈目なことを都合よく並べるだけなのか知りたいものです。

日本高級玩具商小売組合　荒井新一郎殿

あなたは、モデルガンというものが、どんなに苦心してつくられるかということは知っていると思います。

あなたの組合の中田商店が、新製品ルガー一種を出すのに、どれだけ苦しんでいるか、昨年発売の予定がすでに一年以上も遅れていて、５月現在未だ未発売だし、ＣＭＣのガバメントにしても、何ヶ月か発売の延期をした事実を。それなのに、あなたは、そのモデルガンのつくる苦しみをすべて捨て去って、只イミテーションによる最も楽な仕事を選び、不当な利益を得ようとしているとは……あなたは、雑誌発行人として、数ヶ月前迄のスポンサーの仕事をそっくり奪って、それで当然の様な顔をしているのですか。あなたの行為には一片の良心さえ見出すことは出来ないではありませんか。

十条金型につくらせているＰＰＫを始め、チーフスペシャル、ハンドエジェクター、センチニアル、ブローニング等のおびただしい種類のものは、十条金型の一工員の通報によって私たちにわかったのですが、あなたは、その事実を、新築なきったばかりの世田谷区深沢一の一九の豪壮な私邸での私たちとの会見の席上、素直に認められましたね。あの四月六日にあなたが言われた「きれいな手で、金もうけしたのではない」という言葉を私たちは忘れることが出来ません。

我が国のモデルガンファンは、どれだけ素晴らしい製品の出来ることを待ち望んでいることでしょう。十条につくらせているあれだけの金型代を、何故もっと新しい製品の開拓に廻さないのですか、すでにＭＧＣから発売したものは、何万人かのガンマニアがみんな持っているのですから、その点だけでも、あなたのやり方は無駄な投資をされていると思います……

それとも、新製品に対する自信がまるで無いから、同一のものしかつくれないのですか。それにしても、最も大きな問題はＭＧＣのパテントの一つである銃口部分の特殊インサート方式を、みようみまねでつくって、簡単に銃口が抜ける危険なモデルとして、あえて販売すると言うこと――素人なら“知らなかった”で済みましょうが、ＧＵＮの専門的な立場にあるあなたなら、意識的に手を抜いたと非難されても仕方ないでしょう。

もし万一この銃が、組織暴力団に流れたら、どういうことになるか考えたことがありますか。

日本高級玩具小売商組合　荒井新一郎殿

私たちが、パテント侵害だ、商道徳に反すると言っているのは、ＭＧＣの企業を守るという単純な動機だけではありません。ＭＧＣのパテント侵害は、単なる流行品の意匠登録とは異り、一歩間違えば、人間を殺傷するという危険性につながっているからなのです。新しくモデルガンをつくるのなら、警視庁と事前に打合せするぐらいの良心は、当然持つべきではないかと思います。

実物とちがうモデルガンを作る場合、もっとも価値があるのは、この安全機構の点と、モデルガン自体を作動させる新しい機構を作るということです。それらはモデルガン独自のものであり、その一つの例がＭＧＣが去る37年に開発した前撃針による発火方式だということは、あなたは良く知っているはずです。

一つの研究開発に払った私たちの血のにじむ様な努力、それを、あなたはそっくり無断で、こともあろうに、私たちの下請屋をそそのかして作ったという事実は、私たちは断じて許すことは出来ません。

日本高級玩具小売商組合　荒井新一郎殿

私たちは、あなたの発行している雑誌「ＧＵＮ」に何年にもわたって、何百万という広告費を支払ってきました。あなたは、又、その雑誌の代理部で、私たちの製品を通信販売で売って利益さえ得ていたのではないですか。そして今、「利益のためなら何をしても良いのだ」と主張するあなたを見、それに対して憤りを押えることすら出来ません。

もしあなたが、今后もモデルガンの販売を続ける意思があるならば、この問題については直ちに善処されんことを望みます。

# くたばれ！MGC

A　この4月以降、随分色々なことが重なりましたね。
B　いや、全く驚きの連続でしたよ。
C　サービスセンター、不法所持の問題。マニアとしては、まさかMGCが起したとは信じられないね。
A　いや、モデルガンの仕事を完成させる迄には、色々と失敗もあるさ。
B　もっとも、そう言うことを経て、本当のものになるのかも知れない。勿論、MGCのことだから、深く反省しているだろう。
C　MGCのイミテーションを作っている所がわかったそうですね。
B　実はPPKからセンチ、M3まで6種も、作ろうとしていたんだよ。十条金型はひどいところだね。なんせMGCの下請なんだからな。
A　国際へMGCの設計図を、一種類200万で横流ししたんだってさ。
C　モデルガンのポイントは金型屋のよしあしで決るのかな？
A　いや、そうではないよ。あくまでも、モデルガンとしての設計が一番肝心なんだよ。
B　それでおかしなものなんだな。十条内部にスパイがいて、そこから情報がえられたのだよ。情報を得たのは4月5日午後10時頃。早速幹部が集って検討したんだが、なんせ十条はMGCの下請。出来上ったものはSWチーフスペシャル。ところが、これが問題の銃砲とは……。
C　MGCはなにしろ、37年にコマンダーで発禁処分をうけてから、安全なことについては随分と研究して来たからね。
A　十条のSWを見た時、由々しい問題だと思ったわけだ。それで、すぐさま十条金型に抗議に行ったわけさ。ところが、十条は秘密のうちに作っていたので、大あわて。後から伺います。その時に話し合いましょうなどと、その場をとりつくろい、証拠の金型を持って行かせておきながら、後になると強盗だなどと、寝言をいいふらしている。
C　本当に強盗と思ったら、何故すぐに110番へ電話しなかったのだろう。
A　そりゃ出来ないさ。自分達が悪いことをしているんだからら。少くともMGCの前では、頭の下げ通しさ。だけどそのままでは言訳が出来ないので、相談の上、逆にMGCを悪者にしたのだろう。
B　ところで、警視庁に提出した十条製のチーフの鑑定はまだ出てないようだけど。
A　そりゃもう銃砲にきまっているよ。もしあれが銃砲でないと言うなら、あれより威力のないコマンダーで発禁をうけたMGCは、いったいどう言うことになるのだろうか？
C　一般の人の中には、MGCが不法所持したり、密売をしていながら、十条製が銃砲だとは矛盾していると、言っている人がいるけど。
A　はっきり言って、立派なモデルガンを作るためには、莫大な研究費を必要とするだろうし、企業の合理化のために作った販売店から不都合なものを出した過失は申訳ないけど、MGC本来の目的としているものは、危険でないモデルガンを作ることに尽るのだ。十条のものは一寸改造すれば弾が出るのだし、4000丁と言う数が問題だね。社会的脅威だよ。
B　十条製のモデルガンがよいと言うことになれば、全国的にモデルガンの名をかりて、危険な拳銃が多量に作られるおそれはあるね。
C　十条の依頼主国際は、スポンサーのMGCに対して、ひどいことをするもんだね。
B　出版精神から言って、完全に失格だね。
A　それはそうと、MGCが東京に販売店を持ってから、アメ横にはかなりの積極的なモデルガンファンが増えたことは確かだね。
C　この半年、お客が従来のアメ横業者に寄りつかなかったのは、よほど彼等にはこたえたようだね。それで必死に商売にしがみついてるんだね。
B　いい意味での自由競争はあった方がよいと思うね。しかし人の真似だけはするべきではないね。
A　MGCのガバメントはCMCの真似ではないよ。CMCのはミリタリーモデル。MGCのはコマーシャルモデルでずっとスマートに作ってありますよ。勿論内部の機構も違うし……。

## あなたが作るページ

**「ガラスの中の銃口」（SCIENCE-FICTION）**

その日、昼下りの銀座はいつものようにクラクションの音と、若者の人波でうずまっていた。

この雑踏の中で純平は幾度となく立止り、躊いつつ行き来したが、ついに一つの決心を固めると、それに向って真直ぐ歩き出した。そこには若者の心を捕えるに充分な、豪華に飾りたてたショーウインドがあった。　問題はウインドの大きさではなく、その中からにこやかに微えみかけているマネキン人形にあった。

純平は美しく着飾ったマネキン人形を憎しみの瞳で眺めた、「亜利沙 ……」。　純平はそこに遠い日の、彼女の姿を見つけた。彼は亜利沙によって女性の美しさの中にある、恐しさと醜くさの全てを教えられた。その人工的な微笑さえも、「サヨナラ」を告げた時の、あの冷やかな顔そのものだった。「さようならはまださ」。彼には亜利沙の心を理解し、何の抵抗もなく許すにはあまりにも若かった。若さゆえに純平はあまりにも多くの愛を求め、そして溺れた。「ごめんなさいね。でも私たちもうお終りね」。

愛は終っても、俺にはまだ憎しみが残っている。この憎しみの消えないかぎり、俺達は無関係ではないのだ。

彼は暫く、彼女に見惚れていたが、これからなすべき事を思い起し、そして悩んだ。彼の持つ潔癖さから、モデルガン　マニヤとして鉄則とされている（たとえモデルガンであっても、銃口を人に向けてはならない）　禁を犯かすことは大きな苦しみだったからである。しかし、彼はこれほどまで自分に、苦しみを与えた彼女に向って、愛しく磨き上げた拳銃に怒りをこめてつきつける事は、当然の権利だと思った。この拳銃、つまりHSCモデルは、実物を忠実にモデル・アップしてはあったが、もとより弾丸を発射するメカニズムまでは備えていなかったし、装塡してあるのもブランク・カートリッジだ。危険はない。それが最後の彼の思いやりだった。

純平は深く溜息をつくと顔をあげ、改めて彼女を見た。ウインドグラスには微えみ続ける亜利沙と、青ざめた彼の顔を映し出した。偽りの多い都会にあってもガラスだけは、いつも正直にありのままを間違いなく映す。純平は自分の心を見透かされたような気がした。「どうしたのよ。その顔は」亜利沙の冷たい声が、又聞えてくる。純平の心の均衡は破れ、彼女との対話は終った。

彼はいきなりバーンズ・マーチンホルスターに手をかけ、いつもの様に3秒でHSCを抜き取り、左手で素早くスライドさせると、引金を絞り込んだ。それは全く自分でも驚く程機械的に行なわれた。

突然、見事な音を立てウインドグラスは砕け散り、白磁色をしたマネキンの腕から、あざやかな鮮血が溢れ赤い線を引いて流れた。そして、何十個となく飛び散ったガラスの破片に映し出された銃口の一つ一つが、静かに彼に向けられていた。　浦和市、橋爪龍彦

**がんせい**

ここに産れしわたくしは
いかに幸せ握むらん
ボンドショップに来る客は
みな良い人に思われて
喜び勇んで参ります
主人の家へと参ります

その晩からは温たかい
毛布に包まれ御主人の
まくらのとなりに居りました
おやすみなさいを言う前に
わが御主人はわたくしを
かならずみがいてくれました

昼は明るい室内の
壁にかけられ皆さんに
きれいきれいとほめられて
こんなうれしい事ぞない
ああ、ありがたや御主人は
また弟をくれました
今じゃ主人はガンマニア
我が兄弟も6人で
みなピカピカと輝いて
この幸せを御主人に
いつも皆で知らせます

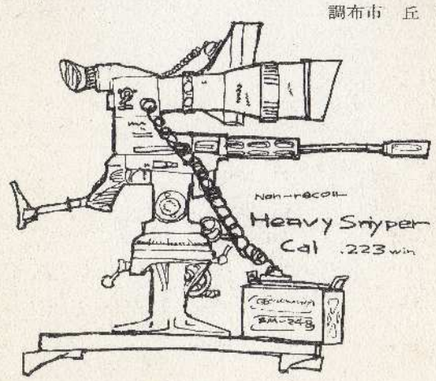
ここに産れしわたくしは
いかに幸せ握むらん
ボンドショップに来る客は
みな良い人に思われて
喜び勇んで参ります
主人の家へと参ります

参った家には二人の子
わたしをオモチャと考えて
ふんだりけったり致します
その親達はわたくしを
けんかのもとだと考えて
こわしてしまうとおどします

わたしは悲しゅうございます
わたしは泣きとうございます
だがわたしは無言です
ただひたすら御主人の
理解をまってだまります

雨のそぼ降るある夕べ
主人に捨てられくさむらに
一人悲しく横たわる
もうさびついた引金を
見ては嘆かん近き死を

調布市　丘　直也




**夢の狙撃銃**　北海道　安田一考

**読者のページ新設、どしどし投稿されたし。テーマ、形式は自由です。**

# ワルサー訪問記（3）

Sutudy by Visitiation of The "WALTHER" Sport- und Jagdwaffenfabrik.

工場長の案内で、バッファローの剝製が置いてある廊下を通って階段を降り、タイプライターの組立工場の横を通る。

この建物の中では、白いネッカチーフを覆った美しいシェンシェル達がコンベアー・ラインの両側にずらりと並んでいる、思わず立ち止って「おお、なんと素晴しき景であることよ」と云いかけたが、そんな事をしにウルムくんだりまで出掛けて来たのではない。余計な事は考えず、いやに靴音の響く廊下を、又歩き出した。

私達の横を、トランスワールドの大型蒸気機関車を連想させるような、イタリヤ系のオバサンが、手押し車に木箱を積んで通り過ぎた、その箱には白く光ったP－38のアルミフレームが行儀よく並んでいる。そのオバサンが手押し車を止めて廊下の突当りの網ガラスの入った扉を開けた。天井にビッシリと並んだ螢光灯に照らされて、うぐいす色の工作機械がずらりと並んでいるのが見える、ここがどうやら工作室らしい。

工場長が四方木田君に何やら喋っている、「ビストーレ、ドライスィヒアハト」これだけは即座にその意味が解った、P－38のことである、我々4人はオバサンに続いて中に入る、ずらりと並んだ工作機械の間を、数人の工員がいそがしそうに行き来している。

工場長が皆んなに聞こえるように大きな声でなにか云った、「デールヤパーナ……」我々のことを皆んなに紹介しているらしい。

作業員達は一瞬その手を止めてこちらをふり向いた、若い人もいれば50才ぐらいのいかにも熟練工といった感じのオジサンもいる、ワルサーの歴史の古さがここにも感じられる。

工作機械の大半は二本のアーバーを持った量産型の横型のフライスで、一台に2～4個のバーチカルアタッチメントを付けて切削加工をしている。

テーブルには二列に治具を取り付けて、二つの材料を二行程分一度に加工してしまうのだ、つまり標準型のフライスの4台分を一度に加工してしまうのである。

そして自動送りをフルに活用しているので、材料を治具にセットするだけで済み、一人の作業員で4－6台の工作機械を受け持っている。元来P－38は、P－08の持つ優秀性を更に高め、その欠点であった送弾の悪さとセーフティーシステムの不完全さから起る暴発事故を皆無にせよとのナチスの命令により、ワルサー社が"わがドイッチェランドの為ならば"と、当時採算をある程度度外視にして生産した拳銃であった為に、戦後再びその生産を開始した時は非常に苦労し、ましてや労働賃金の高い現在の西ドイツでは、工員一人当りの工作機械の受け持ち台数を多くし、その工程の合理化を計らなければ、ワルサー拳銃の中で一番部品数の多いP－38をコマーシャルベースに乗せる事が出来なかったのであろう。

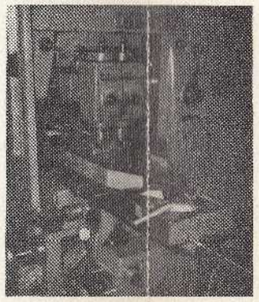
機械加工を了えたパーツは、この部屋の右の方にある仕上げ工程へ廻される。

ここでは男性は指導員が一人、あとはこの部屋へ入って来る時に出会った太っちょのオバサン達が、テーブルバイスを前に数本のヤスリとベビーグラインダーでP－38のスライドやメインフレームの面取り作業をしている。

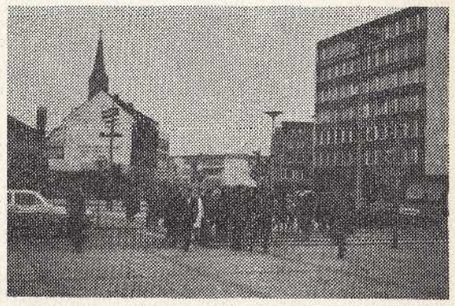
このような軽作業は、イタリヤやスペインから出稼ぎにやって来ている抵賃金のオバサン達でまかなわれている。

このオバサン達は人見知りをするドイツ人に比べて非常に人なつっこく、私達にしきりと話しかけるのだが、イタリヤ語であることは解るが、それ以上はどうにも通じにくい。

あきらめたオバサン達は、我々の方を見ながら何やらささやき会っている、話の内要がどうも私達のことらしい、どうにもおかしな感じである。そうだ、私達はここでは地球の裏側から来た外国人なんだ。一瞬、我々はお互に顔を見合せてしまった。



ドイツ的な独特のフライス盤



新ワルサー工場のあるウルム駅附近

# モデルガンの出来るまで

あなたの持ってるモデルガンは、どんな工程をたどって出来るか御存知？

それでは“インゴットからショーウインドー”まで、即ちモデルガンの出来るまでを、目でおってみる事にしましょう。

## 試作工程

**企画**

マニヤの希望、いろいろな資料、アイデアスケッチを持ち寄って、新製品の機種が選ばれ、そのスタイルやメカニズムが決定される。

**設計試作**

決定されたアイデアスケッチを基に試作図面が作られ、試作図面に従って最初の試作品が製作される。

**量産設計**

試作品を検討し、量産した場合の難点を修正して、量産品の設計に入る。

**金型設計製作**

これに基ずき、金型の設計図を作成し、製作に入る。

**金型研修**

金型各部の寸法がチェックされ、金型の構造に無理がないかどうか検査する。

**ダイカスト試作**

出来上った金型で、始めてのダイカスティングが行われる

**金型修正**

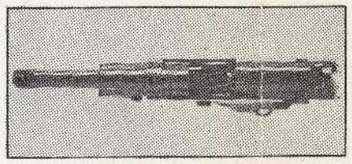
ダイカスト試作で、金型の具合の悪かったところを修正する。

**量産試作**

量産に耐え得るかどうか試作され、不備な点は再度修正される。

**安全制について**

量産試作品をみて、特に量産した場合の安全性などしんちょうな検討が行われる。この問題は、徹底的に討議され多くの試験結果から、始めてその決定をみる。この件だけでもＭＧＣは４つのパテントを申請している。



（P38カスタム）どこからどうみてもカッコいいんだなァ～！

## 量産工程

**亜鉛合金インゴット**

1t当り、14万円（Virgin）のインゴットを外部より購入。

**ダイカスティング**

鋳造機は、30－100tの圧力で金型を加圧し、その中へ約400度に溶解した亜鉛合金を、約3tの圧力で10分の１秒ぐらいの時間で射出鋳造してしまうので、複雑な形状を持ったものでも、きれいに精度の高いものを造り出すことが出来る。

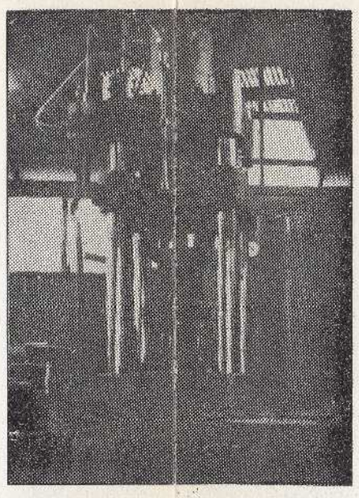
**手仕上**

ダイカスティングされたフレーム及び各パーツを、ヤスリ、サンダー等で仕上げる。

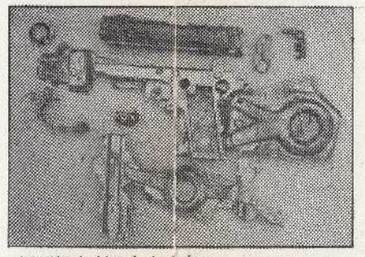
この場合、部品と部品の接触面など削り過ぎぬよう、注意をはらわねばならない。本来“角”であるべきところをかどを落してしまい“丸”くするようでは問題外、要するに“きれいに、忠実に”仕上げなければならない。

**機械加工**

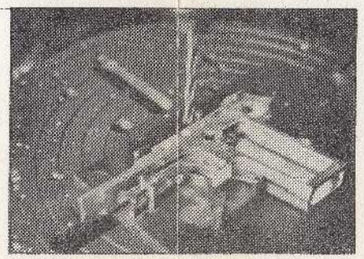
仕上げの終ったものは、ここでボール盤加工（主にビス穴）、タッピング、フライス加工（スライド、照門の溝）、旋盤加工（バレル、シリンダーの後面）、といった機械加工が行われる。いずれも機械作業だけに、寸分　狂いも許されない。つまり、わずかなミスも組立の段階で大きくひびいてくる。



ダイカストマシーンてバカデッカイや



何が何んだかわかんない



わかって来た、わかって来た。

**着色**

研磨されたものは、何種類かの溶液に順序よくひたして着色する。

この時、溶液の温度、薬品配分の割合、溶液につけておく時間、溶液につける順序が非常に重要なポイントとなる。

現在ＭＧＣ協会で行っている着色方法は、永年の苦労の結果、協会独自に開発したものである。

**文字調刻（製造番号）**

製品名及び製造番号などを刻む文字調刻は、パンタグラフ・マシーンなるものを用いて行われる。

この機械を使用しての調刻は、大変きれいだし、製造番号を入れる事により、顧客にも充分満足していただけ、製品管理面で成果をあげている。

**組立**

フレーム、スライドの調刻が終ると、いよいよ組立に入る。引金、スプリング、あるいはハンマー等が組込まれて下組が終ると、スライド、シリンダーが付けられ、一度ここで調子をみる。これで良いとなると、グリップが付けられてほぼ完成する。この組立でそのモデルの調子の良し悪しが決ってしまう程重要である。

**調整**

組立の際にだいたい調子はみてあるが、ここではさらに詳細に渡り調整する。つまり、シリンダーの回転具合（シリンダーストップはきくか、引金は重くないか）あるいはスライドの切れは良いかを確めた後、マガジンに薬莢をつめて、排莢、撃発の具合を調べ、これで良いとなると補修され、オイルがさされる。

**検査**

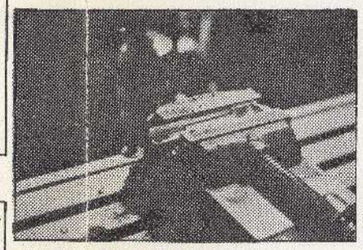
再度ここで、引金は重くないか、スライドの切れの具合は、シリンダーは、シリンダーストップはしっかりかかるか、といった細かい検査が行われる。

**研磨**

機械加工が終ると、着色の際ガンブルーがよく“のる”ように研磨に出す（“バフ”かけ）。特にフレームが主体となる。

**プレス部品**

マガジンやレコイルアーム等のプレス部品は量産品の製品図面をもとに、ＭＧＣの下請工場で製作され、工場へ納品される。



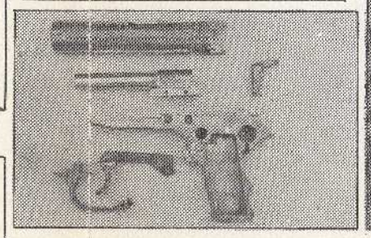
まわりにボコボコ穴あいてらアて

**成型部品**

プラスチック原料の配合で、色合が変化する為、充分検討されてから外注する（グリップ）

**カスタム**

調整されたモデルを顧客の注文により、ここで専門家がカスタム・メイドする。その他にも量産品をベースとしたいろいろなセミカスタムや、ステージガン等も製作している。



なーるほどね

**出荷**

箱詰めが終ると、ボンドショップへ皆さんのところへ、と送り出される。

**ボンドショップ**

完成品の程んどが、ボンドショップから小売、卸売される。いわば、ＭＧＣ製品販売網の総元締め的存在である。

**サービスセンター**

他四軒のモデルガン小売店の中にあるサービスセンターは、現在ではMGCの、ここでの重要な基点となっている

もうチョイで終り、がんばってて、

シークレットスナイパーでしょ、お兄さん

# ガンと女性の関係―こねくと（ほうとう）モデル ハジキとオンナノユ

How to connect Model-gun with a Woman

**「女と小人は難い難し」昔の人は良いことを云ってますね。女性とガン、これはもう永遠に交わることの出来ない関係、いやいやそんなことはありませんよ　決して　望みなきにあらず、但し最初がかんじん。GUNの魅力をよく理解してもらうためには、そう男子たるもの、必死になって作戦をたてなければ……」。**

**まずは彼女を……**

「マアすごい！　これ本物でしょうエッモデルガン？　アラ、これが……でも 3,000円でしょ……まさか、貴方買うんではないでしょうね、駄目よ、勿体ない！」強引に腕を組んで、ウインドの前から君を離そうとする彼女。「あ～ア、女ときたら、これだからやんなっちゃう」こうぼやく前に、一つ何とか、手をうってみては如何？

女性とガン、これはもう永遠に理解し合えないものだろうか？なんて深刻に考えないで、一寸工夫。

先ず君と彼女の場合について考えてみよう、いくら君だって街の中、オフィスの中で見つけた女性と、すぐ腕を組んで歩き出した訳じゃあないでしょ。先ず第一にオヤ！と感じてしばらく観察し、第二に彼女に関するある程度の予備知識を持つてから、第三番目にいろいろ作戦をたて、やおら攻撃に移った筈。だがら彼女とGUNに関しても同じことがいえるんじゃないの、それに彼女だって君を理解したくってウズウズしてるはず、このへんの呼吸に君とGUNとをうまく合せなくてはいけない。

先ず第一の作戦は、これは、何もむずかしいことではない、普段の心掛けということである。自然に、極く自然に、彼女にGUNの知識を植えつける。日常の会話の中へ、さり気なくそれを入れていく。GUNの専門語が入ろうと、君自身云ってることが、多少チンプンカンプンでも一向に構わない。要するに君は楽しそうに、嬉しそうにそれを、しゃべれば良い、但し余り永々としてはいけない、程々に。女性というものは、とかく神経が微妙で、変な処に気を使う。男の長話し、特に女性の興味のないものには、頭を使わせないことがかんじん。第一段階では特に相手の立場になって、GUNの知識は間違っても、ひけらかさないこと。

そして、頃合を見計って第二の作戦を開始する。突然、元来この突然に女は弱いものだ。GUNの話しを始めるのだが、それには、本なんかから入って見給え、(The Study Of The World Small Arms　なんてのが、カッコウ）きっと彼女は、　「アラ、何んのご本かしら？」と来る、そしたら君は「ナニね、前々から銃器が好きでいろいろ勉強しているのサ、銃器は王候の趣味と云われるけど、仲々深みのある世界でネ……」なんてツブヤク、そして子供の頃のテッポウ遊びの事など、いくらかフィクションを混え、ロマンチックに、懐しげに語って聞かせ、更に2・3頁の写真を彼女に解る程度に説明し、君とGUNとのツナがりを紹介する。ここでは、自分がGUNに魅力を感じた、いきさつを語れば良い訳。

第三作戦、これはもう総攻撃である。もうこの頃になれば、彼女とも、グット親密感を増してるはず。多少の我がままは通るのだから、ことGUNに関しては、必死にその必要性を力説する。推理小説。SPY小説、TV映画、題材は幾らでもある。例えば、007の映画をみたら「ホラ、あれがいつか説明したワルサーPPKだよ、いいだろう」

彼女の目が、ボンドの胸毛から、やおらPPKに移つる。すかさず、銃の出てくるシーンは、必ず、となりの彼女を突っつく。そのうちに不思疑なもので、段々彼女の方から“あいず”がくる様になることうけあい。そうなればしめたもの、ここぞと、日頃ウンチクを傾けた知識を機関銃の如く彼女に浴びせる。野球だって、相撲だって、解説が付いてる方がはるかに楽しい。映画だって例外ではない。そして解説者は、彼女が心から信頼している貴方自身、どこも悪かろうはずがない。

男性的なアクションを好み、それを理論的に究明する君の姿に彼女は、尊敬と憧れのマナザシを向け、やがては「優しく理解して上げなければ」と彼女の方から手をさしのべてくれる様になるだろう、キット。

しかし、ものには例外ということもある。全てが好都合にいかず、思う様にいかない場合は確かにあるものだ。その時は……ほら、子供の時にやったあれさ、泣く、わめく、しがみつく、だだをこねる、あらゆる手を使ってみることだ。これが意外に効果がある、女性本能の“母性愛”というやつにうったえる、最後の手段というやつ。

こをを、ウッカリやらないで、知らん顔をして彼女と一線を画していると、それはもう永久に、GUNは男だけのものになってしまう、ホント。

**そして最後は奥様方よ**

「ネェあなた……あたしとモデルガンといったいどっちが好きなのョ」（そおら来た）

一度は女房から言われるだろうと覚悟はしていたが、ついに来るものが来てしまったという感じ。常日頃から、その解答を考えてはいたものの、この場におよんでどう説明したらよいのやら。

変なことを言おうもんなら、待ってましたとばかりに言葉じりを把まえて、上げ足を取られるに決っている。名文句が浮ばないまま、つい言葉につまってしまった。

「ソウトモヨ、モデルガンはオマエと違って“着物買ってン”なんて言わないし、何丁でも持てるからね」。てなこと言おうもんなら、それこそ大変。タバコ銭切りつめ、社員食堂のカレーで我慢して、苦労して手にしたモデルガンも、エイッとばかりにバーラバラ。これじゃあ貴方はマニアとしては失格。

マニアたるもの、女房から「・・どっちが好き？」と聴かれたら「そう、モデルガンは好きだ、そして楽しいよ。でも、人間と趣味と一諸には出来ないよ、しかもオマエと私の間には“昌彦”という結晶がちゃんといるじゃないか」てなこと言ってみたまえ。我々男性と女性とは、その機能上、別々の種族なんだから、考え方まで違うのは当り前。

但し、オマエだけは別なんだと、これだけは言い忘れてはいけない。

よく「クドクには、言ってるヤツが歯の浮くようなセリフほど良く“オチル”」と言うではないか。えてして女性は調子がよいほどその気になるものだかえって真実を説く方が誤解を招きやすい。でも、今さら女房を口説くなんて、それにウチの奥方を知らないから、そんな無責任なことが云えるんですよ。正面切ってそんなことが云えるかどうか、一変ウチへ来て女房の……いや、皆までおっしゃるな、解ってます。

口説くといっても、顔と財布の紐を一緒に緩めろというのではない。そんなことをするから、変な誤解を受けたり、それを利用して、これ幸と物を買わされるはめになり、そして気前を良くしたことで口説いたものと思い込み、ヌッと手をさし出したりするから、「バカ、エッチ、何さ！　ちょっと物をプレゼントしたからって、それとこれとは別もんヨ！」「てやんでェ、あのハンドバッグは3万両もしたんだぞォ」てな結果になるのがせきのやま、こんなことじゃあいけない。

**急ぐあまりに無理をしてはいけません きらわれるのがせきのやま……**

元来マニヤというものは、人より金を少なく掛けるかわりに、自分の能力をフルに生かすところに、その楽しさがあるのだから、こんなことは、諸君のやることではない。

それより、休の日には、洗濯機やクーラーの修理などしながら、「オレは彼女も機械いじりも好きだから、こうして修理をするんだし、うまく行きやぁ浮いた修理代も廻ってくるだろう。楽しいね。」この精神です。

これさえ忘れなければ、機械オンチという女性の盲点を、うまく利用でき、「私のために日曜日まで」と、先さまは勝手に都合よく事を運んでくれる。

何をするにも、手前勝手な云い訳を必要とする女性としては「貴方が好きなのヨ、だからモデルガンはしかたがないのヨ」と、ちゃんと理山付けてくれる、ましてやテレビのヨロメキドラマのキザな口説きを聴くだけで、きも、自分がウワキしたような錯覚を起して自分を慰めている、けなげなる女房達ではないか。ここんとこをよく考えて口説いて見なされ。

下手なコマーシャルも百ペンの例えの通り、何事にも根気が一番。そのうちに、月曜日の残業を終えて帰宅したときなど、「今日のジョンドレイク、イカしたワ。あの人の目、グッときちゃったわアタシ……そいでね貴方、ベレッタの薬莢の飛び出るの良く見えたわョ」てな具合になること受け合いである。ま、努力したまえ君。

# にゅう・もでる
# GOVERNMENT
# & HSC

モーゼル・HSC・資料

| | |
|---|---|
| 全　長 | 165mm |
| 銃身長 | 83.2mm |
| 重　量 | 650g |
| 装弾数 | 8発 |
| 材　質 | Zn－Cast |
| グリップ | ウォルナット |
| 仕　上 | MGCブルー |
| 撃　発 | フロント・フィーリング・システム |

コルト・ガバメント・資料

| | |
|---|---|
| 全　長 | 215mm |
| 銃身長 | 125mm |
| 重　量 | 1000g |
| 装弾数 | 7発 |
| 材　質 | Zn Cast |
| グリップ | ナイロンチェッカー |
| 仕　上 | MGCブルー |
| 撃　発 | フロント・フィーリング・システム |

定価　3,300.

## GOVERNMENT

ここで特筆すべきは、まず第一に原寸大であるという事でしょう。あのゴッツイ、デッカイ、スライドを後退させると、カチャッではなく、ガシャッという音がする様な、いかにも軍用拳銃といった、姿そのままで登場します。ブローニング同様、分解、組立は工具不用、セーフティー・システムに致っては、全く実物同様、機構面でも、ほぼ実物に近い線までいってるんだから、こたえられないでしょう。ともかく以下を読んでみて下さい。

それでは、MGC製のガバメントとは一体どんな物か、詳しく記してみましょう。

コマンダーを忘れてはいないでしょ、全くあのままの楽しさが、再現されたのです、いやそれ以上は確実。つまりスライドを引くと、ハンマーが起き……「まてょ、こいつは、コマンダーみたいに発禁になるんじゃないか？」なんておっしゃる向には、心配無用、つまり安全性は充分過ぎる程考慮され、いささかの不安もないのです。「ブローニングみたいに、いちいちスライドをバックさせるんじゃ」という人、ともかくボンドショップでもひやかしがてら、こいつをいじってごらんなさい、「ずう体はデッカイけど、何んて、カワイイ奴だ」てな具合に、不満はたちどころに吹き飛ぶ事受け合い。あのゴッツイ、いかにも男臭いといった感じ、この薬莢がこれ又にくい、直径が12mm、全長30mmで45ＡＣＰ弾とほぼ同寸。しつこい様ですけど、ともかくダイナミックなモデルガンです。このガバメント、第２回ブッバナセ大会にも、お目見えするらしい。

## HSC

今回御紹介するは、銃らしい銃として評判も高く、はたまたモーゼル・ＨＳＣと聞けば、"泣く子も黙る"といえばちょっぴりオーバーかもしれないが、ともかくモデルの方の出来ばえはさえてます。発売はコルト・ガバメントの後になる予定です。

このモデルは、引金を引くだけで撃発、排発するワルサーＰＰＫのメカニズムと、楽しさを充分に取り入れ、さらに３つの新機構が折り込まれています。　さて、その新機構とは

① **エキストラクターが実物と同じ様に動くため、排発が従来より確実になったという事。**
② **使用感として、引金の引き始めがやや重く、終りが軽いため、総合的には引金が非常に軽く感じられます。**
③ **引金を引いた時のスライドの後退する速度が、早く感じられる。**

この様な特徴により、ＨＳＣはＰＰＫ以上に皆様を、満足させる事でしょう。

# イミテーションの分析

“ニセモノづくり”この最もイヤな感じのする仕事を、臆面もなく始めた人達がいる。自称高級オモチャ組合（代表者、荒井新一郎）に加盟している人々で、昨年11月の声明では、ＭＧＣ製品は不良であり今後一切取扱はしない、といっていた。処が今年に入るとどうだろう、ＭＧＣ製品そっくりのニセモノを、下請工場でつくらせ、堂々？と販売し始めた。ＭＧＣのモデルガンは、その安全性のプランについては、永い研究の末“前撃針方式による発火”ではパテントを獲得している、それを無視して製作した“うら”には、例のパテント侵害で告訴されても、それは民事だから何年もかかるはず、そのうちにかせげるだけかせげ、という方針だという。火事場泥棒も甚だしい。現在出廻っているニセモノ、当然の様にメーカー名が入っていない、ＰＰＫとブローニング。あと一つ国際ガンが血まなこになってつくっているとか。

何故彼等は、こう迄してニセモノづくりを始めたのだろう？それは、座って金もうけがしたいからである。ニセモノづくり、これ程、楽でうまい話しはない。併しこれをつかませられた方こそ災難。流行のオバＱのニセモノとは訳がちがう、モデルガンは、人の心をうつ趣味としてのものである。ＭＧＣの製品には一つ一つに創意と工夫がなされ、汗と油の結晶でつくられたものばかりである。努力せずして金もうけの出来る対象に選ばれたのではたまったものでない。彼等は良識のカケラも持ち合せない人達であろうか？本格的モデルガンをつくるためには、先ず一貫した設備、そしてたゆまぬ研究と努力が必要である。それではニセモノのどこが悪いか、ＰＰＫとブローニングのイミテーションについて記してみたい。

まずは、ＰＰＫのニユータイプと称するシロモノ。全長だけは151mmとＭＧＣより10mm長く、重量は500g、これを原寸大と云うやつらしい。

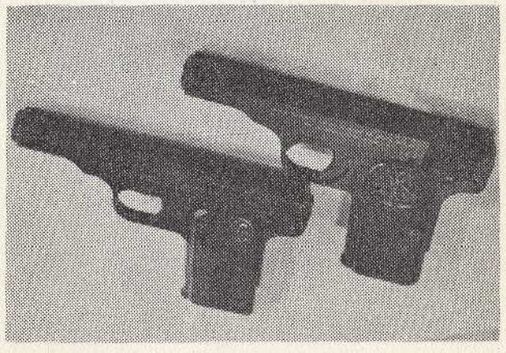
しかし、実物の外観を模したのではなく、その割には、マガジンベース・スライドの巾、排莢口などがいやに小さく、そのかわりにグリップがウスペラなくせに、実物より大きく作ってある。

おまけにスライドの刻印が一文字違いのソックリ、なのにＭＧＣ製品と混合させるためか、メーカーの表示がなにも無く、正に国籍不明と云う、誠にもって人を喰ったＰＰＫだ。

たとえＭＧＣのメカニズムをそのまま真似たにしても、外観に合わせて部品を設計する技術すらなく、ＭＧＣの部品をわけも解らず真似てある。面白いのは、ＭＧＣ金型を修理したところや、寸法違いを修整した箇所まで真似るとは、正に“サルマネ”である。

この未熟さかげんを、ツギタシフルスケールで胡マ化そうとして、かえってボロを出す結果になっている。

しかし、このＰＰＫとて、そうそう“コケ”にしたものでもない、たった一つ、誠にもって忠実な点がある。それは裏街の小さな“金型屋”を安くタタいて作らせた、このＰＰＫのキャスティングダイスのいかれさかげんと、近代的機械設備を使わず、オンボロフライスとタガネ仕事でしか出せないグリップのナメクジラインを、キズ一つあますところなく忠実に出していることだ。



ＰＰＫのニユータイプと違って、このブローニングのほうは、一見ＭＧＣソックリ。

これがイミテーションデーラー達の集団であるＮＫＧのキャッチフレーズである「ホンモノソックリ」と云う言葉の真意であったのかと、今更ながら感心？した次第

スライドの刻印は、表側が本物（ベルギー製の弾の出るヤツ）と同じで、裏側にはこれまたメーカーの表示がない。（ＮＫＧの一員に聞いた話だが、製品にメーカーの名前を明示するのは、ＰＲくさくっていけねエそうだ。その点ＮＫＧはオクユカシイとよ）

このブローニング、横から見た限りでは、猿マネの割には良く出来ているが、ブローニングの持つあの優しいムードがない。まずはトップリング、溝が荒いというよりも波を付けた感じで、ビール瓶の王冠を思わせる。又ライドのリブは、これまた荒く蚊帳のごとし、後のフレームとの合わせ目は、ガックリとずれている。サムセーフティーは動かず、良く見ればグリップセーフティーが出てこない。分解してみると、焼けノコみたいなシアースプリングが腰を抜かしていた。

中の部品はこれまたＭＧＣソックリであるが、マガジンセーフティーが働かない。

つまり、同形の部品を使っているのだが、その相互関係がまずく、完全に作動しない。

何でも、このブローニングを作った工場はアトムロケットとか云うマンガみたいな空気銃を作っていた、フラフラの下請工場らしい。

銃の中で、一番部品の多いモデルガンを作るのだから、無理からぬ話かも知れん。

マガジンを抜いて眺めているうちに、初期のスペシャルのマガジンを手造りしていた頃を思い出す。そうだ、あの頃は私達も未熟だった、ゆがんだマガジンを良く作ったもんだったっけ。

それに引きかえ、グリップは良く出来ている、ＦＮのマークも全く同じ、このグリップはＰＰＫのグリップと違って、金型は金の掛る電鋳という新しい工法（サンプルのＭＧＣグリップにメッキをしてどんどん厚味を付けていき、メッキがにぎりこぶしの様に厚くなると、メッキの部分だけを取って、そのまま金型として使用する方法）であるから、サンプルに使ったＭＧＣのグリップに付いているキズが、そのままこのイミテーションのグリップにも付いていた、器用なるかな日本人？である。

最後に最も心配なのは、このイミテーションの２種類、ＭＧＣの大きな特徴である、“安全なモデル”ということを、どこまでマスターしてくれたか？という事につきる。この点の心配が現実となって、やがて“モデルガンはすべて発売禁止”なんて事になれば、我がＭＧＣは輸出中心の新しい分野へ歩を進めることになるわけ。皆さんモデルガンのない世の中を想像して下さい、そして“イミテーションをつくるな”という私達の気持を、正しく理解して欲しいと思うのだが。

# 半歳たって公開する……ボンドショップ日記

1月3日（月曜日）
いや全くすごい人だ、併もすべてこれ若い男性ばかりとは。尤も一年に一ぺんのお正月、10時開店と同時に、引きも切らない人波が、ボンドショップに押しかける。目が廻るというより、一人でも多くの人達にサービスしなければ、と昼食抜きでがんばったので、夕方には足がふらふら。"たいまる"のトンテキをのみ込む様にして、急いで店へ引返す。
思った通りまた店は人で一ぱい。なかなか中へ入れない。どうにか受持ちのウインドへ。早速チーフをみせて欲しいと中年の方、普段ならシリンダーのチェンジから分解の方法を説明するんだけど、今日は、スイングアウトきせるだけで、次の人の応接。表では西田君だろうか、気持ち良さそうにブローニングを撃ってみせている。僕もチーフに煙硝をつめて銃声を響かせる。なかなか良い音がする。そうだ、これは今年の初撃ちだ。店の前を通る晴着の娘さんが驚いて、一寸こっちを向く、お正月は楽しい。

1月4日（火曜日）
朝食べたお雑煮のせいか、今日は午後3時に昼めしなのだが割合腹がへらない。朝のうちは、比較的十代の男の子が多かったが、午後からは、住民票を持った20才以上の人が大半なのは嬉しい。もうMGCの販売システムをよく知っていて、仕事はスムース。時々ブローニングとセンチニアルを撃ってみせる、お正月だから景気よくいこう。九州から上京したという親子ずれの方、アンクルタイプのブローニングを大事そうに買って帰る。0011のブローニングの製造ナンバーが、すっかり気に入ったらしく、しきりと感謝していたっけ。お店に陳列している品は、600円の各種サイレンサーから、1万円以上のカスタム迄いろとりどりだから、お客様も様々。
この処、カービンやカスタムが良く売れている。夜8時の閉店間際に、バイヤー風の外人が3人来店、ゴールドモデルと007パスポートやガスライターのアクセサリーをかなり買っていった。

1月5日（水曜日）
開店前から地方の方が5～6人店の前に立っていた。遠い処からわざわざ上京されたんだ、明日はもっと早く店を開けよう。新製品のセンチニアルが今日は良く出る。又M3が以外の人気で、どうやら在庫がなくなってきた。何時もなら早速浦和の工場へ電話すれば直ぐ届くのだが、何せお正月でまだ工場は休み。相変らず店はお客で一ぱい。カスタム類の中には、早くもヘンメリーターゲットが売切れ。ブローニングのスコープ、すごく評判が良いが取付け方は難しいので、スコープだけ買う人には、良く説明する。電話が引っ切りなしに鳴っている、サービスセンターの0017も、多分鳴りっ放しだろう。今日もセンチニアルに火薬を入れて撃ってみる、どうもこの処、音を出して撃ってみたくて、続けざまに20発位撃ち続ける、快晴の青空に向って引金を引いていると実に楽しい。「いつもはあまり撃たないで」なんて云ってるんだけど、すこし撃ち過ぎたかな。

1月6日（木曜日）
正面の大ウインドは、幾らふいてもお客さんが多いのですぐくもって仕舞う。丁度顔の高さの辺が一番くもる。多分ウインドの中に飾ってあるステージガンや、いろいろのカスタムガンをみて、ため息をつくので、その為にくもるのだろう。今日も外人がこれで3組み目、この方はすごく日本語が上手で、びっくりする。英国人とのことだけど、MGCのモデルガンをすごくほめていく、昔から発売されたものは全部持っているとじまんしているので、是非一度ビジェールのお部屋拝見に写真をとらせて戴きたいといったら、"どうぞ"と名刺を置いていく、学生らしく日本には6年いるという、成程MGCの歴史と同じ位日本にいることになる。午後は修理の人が随分多い、殆んどその場で直す、中にはとても銃の手入れの行届いた人がいて嬉しい。矢張り自分の大切な銃は、人一倍磨いたり、いたわったりして欲しい。10時帰宅後、自分のブローニングの手入れを充分して寝る。

1月7日（金曜日）
この処24時間中、銃との生活が続く、朝ボンドショップへの出勤の折、自分はこんなに、好きな銃との生活が満喫出来て、本当に幸福だとつくづく思う。世の中には、余り好きでない仕事を、生活のために妥協して生きている人の方がずっと多いんだから。
2階で着替をして、下の売場へ降りると、もうお客が入り切れない程押しかけている。
何時ものウインドの前へ立つと、てきぱきお客様との応接に忙しい。1月19日の"ぶっ放せ大会"の詳細についての問合せもかなりある、僕も今からその日が楽しみだ、"きっと素晴しい大会になりますよ"と答える。
閉店前、彼女を伴った若い人、PPKとブローニングを買い彼女にPPKをプレゼントする。盛んに分解、操作の説明を得意そうにしている、僕も早くこの様な恋人が欲しい、尤も今は、モデルガンという、イカシタ恋人がいるけど、夜、店が終ってから在庫の整理と、販売の反省会、帰宅は11時。

1月8日（土曜日）
早いものでもう七草も過ぎて仕舞った、忙がしい忙がしいと云っているうちに、お正月も過ぎていく、昼食は思い切って肉と生野菜を充分にとり、スタミナをつける、今日は店へ小学校3年生の坊やが母親を連れてきて盛んに、モデルガンの良さを説明していた、その要領の良いガイド振りに遂にお母さん根負けしたのか、"勉強するんですよ"と何度も念を押し乍ら、PPKとサイレンサーそれにバーンズマーチンのホルスターなど買いあたえる、実にほほえましかった。最近ボンドショップには、親子連れの買物客が、しきりと来る、そして例外なく"うちの子供は本当にガンが好きで好きで、しようがないんですよ"と云い乍ら、それでもニコニコして買って帰る。案外、内心では自分の子供の一ぱしのガンマニア振りを、頼もしく思っているのかも知れない。夜は久し振りに風呂へ行き、さっぱりする、日記をつけ乍らいろいろモデルガンの将来を考え、仲々寝つかれない。

1月9日（日曜日）
今日は1週間で最も忙がしい日だ、朝から人でうずまる位。今日も地方からの人が多い。P38は何時頃か、よく聞かれる、今年はMGCの年、秋には皆さんを"アッ"と云わせますからと大見得を切る。そうそう、お正月の忙がしいのが一段落したら僕もガンの勉強をもっとしなければ……。
昼から夜にかけては、説明や応待で、しゃべり続けで少し頭が痛い。併しボンドショップへ楽しみに来る人のことを考えるとそんな事はいっていられない。牛乳の冷めたいのを2本飲む。この処好天が続いている、上野の街はさすが普段の月とはちがい、着飾った人が夜遅く迄通る。今週の売上順では矢張りPPKとブローニングが一番で、カスタム類もよく売れた、シークレットスナイパーの評判がとても良い。今夜は一週間振りで、TBSラジオの深夜放送"モダンジャズコーナー"（MGC提供）をゆっくり聞こう。そう、数年前徹夜仕事でよくFENの深夜放送を聞いたのを思い出す。

人が集りゃ十人十色、顔が違えば心も違うと古くから申しますように、双子でさえも成長するに従って、だんだんとその考え方や顔かたちまで違ってくるようでございますね。

ましてや同好の志とて他人どうし、同じモデルガンマニアと申しても、それに対する考え方や好みまで同じという方は、なかなかいらっしゃらないようでございます。

このページで貴方様が、マニアとしてどのような性格でいらっしゃるか、ひとつ貴方御自身でテストなさって下さい。

もし、その結果が貴方御自身の性格と全く異った解答が出ました節には、どうか当るも八掛当らぬも八掛と御一笑下さい　ハイ。

① オートマチックが好き
② リヴォルバーが好き
③ フリントロックが好き
④ サブマシンガンが好き
⑤ 機構的に優れたものなら機種は問わない
⑥ 特に外観の美しいもの
⑦ 壊れにくい丈夫なものならよい
⑧ 別にこれといって優れた点がなくとも、楽しめる要素があればそれでよい
⑨ 分解や組立てが充分に楽しめるもの
⑩ 無理に操作が出来なくてもよい
⑪ 抜き撃ちが出来るもの
⑫ 基本的な操作が出来れば、あとは自分で手を掛ける
⑬ 忠実な操作を要求する
⑭ 忠実な外観を持っていれば、動かなくとも我慢する
⑮ 火が出て大きな音がすれば、あとは我慢する
⑯ 火が出なくても、ブローバック出来るものが欲しい
⑰ 出来れば弾を飛ばしたい
⑱ 法律で禁止されているのはよく知ってるが、自分自身で弾を飛ばしたいと考えた事もあった
⑲ 法律で禁止されているのはよく知っているし、自分は弾を飛ばしてみたいと考えた事は一度もない
⑳ 手入れは毎日かかさずやる
㉑ 特別に手入れだけやる時はない
㉒ 週に一度手入れをする
㉓ 撃った後と雨の後は必ず手入れする
㉔ 手入れはいつやったかよく覚えていない
㉕ 素晴しいモデルには、いくらお金を出してもよい
㉖ いくら素晴しいものでも、あまり高いと買わないで何と

# ずばりマニヤの性格占い

か自分で同じものを作ってみようと思う
㉗ いくら良いものでも、皆んなが持っているとあまり買う気がしない。
㉘ 新製品なら、まっ先に買う
㉙ 安くしてくれるなら少々壊れててもよい
㉚ 安くても壊れたのは、ごめんだ。
㉛ 珍しければ少々壊れていてもよい
㉜ 使い古しであっても、部品が全部揃っていれば安く買う
㉝ 部屋のアクセサリーとして飾る
㉞ ガンキャビネットにキチンとしまってある
㉟ 身近な場所に置いておくのが好き
㊱ いつもホルスターに入れておいてある
㊲ モデルガンには必ずネームプレートをつける
㊳ 訪問客にはモデルガンを必ずみせる
㊴ みせてくれといわれた人にだけみせる
㊵ 人によく撃たせてやる
㊶ みせてくれといわれたら、マガジンを抜き銃口を手前にしてその人に渡す
㊷ セーフティーはかけてあるが、火薬はつめて置いてある
㊸ 撃つ時以外は火薬を絶対つめない
㊹ めったに撃つ事はない
㊺ マガジンやシリンダーはいつも開いて置いてある
㊻ 知識は主に映画やテレビ、日本のガン雑誌から
㊼ 辞書片手に専門書を読む
㊽ 構造図の多い専門書を読む
㊾ カタログや写真を外国から取寄せる
㊿ ボンドの様に枕の下にモデルガンを入れて左を下にして寝る
(51) モデルガンを持って寝るのは大人気ないと思う
(52) 手に入れたその日は持って寝る事もある

（A） 3 6 10 14 19 20 27 31 33 38 44 49 51
（B） 2 4 7 11 15 24 28 30 36 40 42 46 50
（C） 1 8 12 16 18 21 23 26 29 35 39 43 48
（D） 5 9 13 17 22 25 32 34 37 41 45 47 52

（A） の数字が一番多かった人
古銃のコレクションの方がお好なようですね
（B） の数字が一番多かった人
モデルガンは、貴方のドレイじゃないのヨ、お大事にね、それに落つきないわヨ
（C） の数字が一番多かった人
貴方って、今のお仕事よりもガン屋の方がピッタリみたいな感じね
（D）本当はモデルガンより、実物がいいんでしヨ（ワカッテル）
（A） の数字に印を付けなかった人
◎美術的要素ゼロ
（B） の数字に印を付けなかった人
◎この人頭へ来た事ないのかしら？
（C）の数字に印を付けなかった人
◎アナタ機械おんち
（D） の数字に印を付けなかった人
◎本当はあまりモデルガンが、お好きじゃなさそうね、

この数字に印を付けた人
㋑（19 20 37 41 50の全部）マニアの鏡っていいたいけどアナタってキザね
㋺（25 28）あなた本当にいいお客様ね
㋩（ＡＢＣＤ）とも4点以上あった人
貴方ってポーカーフェースね、もっと純心な気持ちで、初めからやり直して下さい
㋥○印が26以上あった人
失礼ですけど、貴方マニアじゃないみたいそれとも浮気性なのかしら？

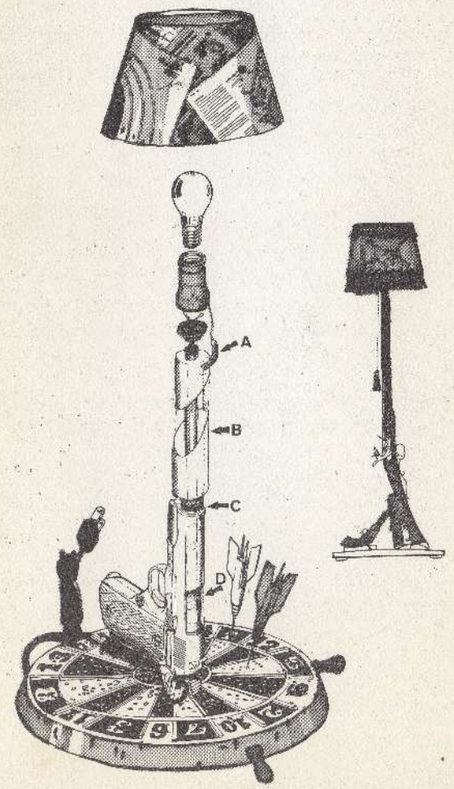
# カスタム・フォー・ユー

# TABLE・STAND

カスタムと一口に云っても、その範囲は広く、なにもモデルガンを切ったり継ぎたしたりすることだけを指しているのではない。

古き良き時代のモデルなどは、ブッタ切るにしのびず、かと云って捨てる気は毛頭ない。つまり、その懐しさゆえに身近かに置いておきたいのである。

どうせ身近かに置くのなら、こいつをヒネって何かに作り変えてみてはどうだろうか。




ガンブーム華やかなりし36年頃に大量に輸入され、スライドが引けるオートマチックスタイルということで飛ぶように売れたヒューブレイオートマチックモデル。

引金を引くと紙かすがパチパチニョロニョロ。今では誰も見向きもしなくなったが、こんなピストルオモチャでも、ガンブームを日本中に広めたモデルとして当時を懐しむ意味で持っている人も少なくないと思う。

このようなモデルは、原形を保つことのみに意味があるので、これを使ってテーブルスタンドを作ってみた。

フレームを２つに分解すると、巻弾使用のこのモデルに、何の目的かは知らないが、銃身がちゃんと（D）に固定できるように作られている。恐らく、ヒューブレイ社のデザイナーがこのモデルを設計した時に、マニヤとしての助平根性を起したのだろう。余談はさておき、これに長いパイプを取り付けて、中にコードを通す。

パイプの先にはスタンド用のチェーンスイッチの付いたソケットを付け、スライドカバーからソケットまでの露出しているパイプの部分には、ガスライターの空ボンベ（B）を加工してスペーサーとして使用するが、これは、ボンベがアルミ板をシボリ加工したものなので、ちょっとサイレンサーを思わせる。

色は、ヒューブレイがニッケルメッキなので、ボンベの方もラベルをはがして真鍮磨きで磨くと、なかなかイカスサイレンサーが出来上がる。ボンベの肩の部分に穴を開けて、これに細いエンビパイプ（A）を熱して曲げたものを付け、その中にスイッチのチェーンを通す。

チェーンはボンベの下まで通して、スライドケースの裏側でしっかりと固定させる（C）。

これで、スライドケースを上下すると、ソケットのスイッチは連動する。

台は、君の部屋のスミに転っている、穴だらけのスパッツ（古いほどヨロシイ、わざわざボンドショップで買って穴ボコあける必要はない）を使ってもちょっと変っていて面白い。

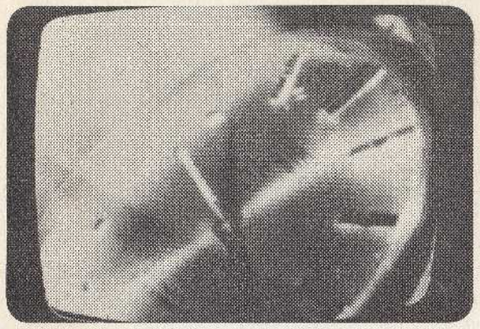
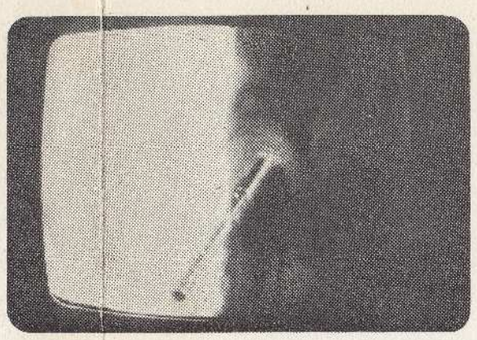
取り付けに必要なＬ型の鉄板は作ってもよいし、俺はブキッチョだと思う人は近くの建材屋に行って、店の女の子に調子のいいことを二こと三こと云ってみたまえ、一枚ぐらいはくれるはずだ。お金を出しても百円止り、どちらにするかは君の自由だ。

シェードも古いものを探してみたまえ、物持ちのよい君の事だ、骨だけでもよい。

よく洗った骨の上に、ケント紙で下張りしその上に、ターゲットペーパーや読み古しの洋書を張り付けるのも一考。

又、アメリカはパイロ社のプラモデル“ケンタッキーライフルを使って、フロアースタンドを作り、シェードはセーム皮、なにも本モノを使う必要はない。ガソリンスタンドへ行きたまえ、カーウォッシュ用の合成セーム皮を五百円ぐらいで売っている。

部屋にこんなスタンドを置いて、その明りの下でガンブーム華やかなりし頃を思い出しながら古いガン雑誌を読むのも、なかなかいいものである。

# ブラウン管のスパイ達

Spy who came in from the braun-tube.

## ジョン・ドレイク

世界中がスパイブームとやらで、出版界はもとより、映画・テレビも御多分にもれず、やたらと探偵ものや、スパイものが"オンエア"され、そのほとんどが一時間番組である。

最近は、聴視者の目も肥えて来て、いいかげんなものや、ひどいおふざけはあまり好まれず、スーパーマン的なヒーローよりも、見ごたえのあるスパイものを要求し始めてるのではなかろうか。

そこで今回は、スパイＴＶ映画の本格派ともいえる、"秘密諜報員ジョン・ドレイク"に登場願おう。

このフィルム、ナポレオン・ソロで同じみの"グローバル"プロダクションの配給になるもので、ロンドンはピカデリー通りにあるトラベルエージェンシーにカムフラージュされたＮＡＴＯ直属の諜報組織に所属する秘密諜報員のお話し。この主人公ジョン・ドレイクに扮するは、ベストドレッサーとしても有名なパトリック・マックゴーハン、このドレイク氏、背が高く鍛えられた体は精悍そのもの、馬に例えるなら正にサラブレットを思わせる。

素晴しく回転の早い頭脳、そして目がまたイカシてる、碧く澄んだその目は、海千山千のスパイ達の心中迄も見透してしまいそうである。女性などはこの目で見つめられたのではひとたまりもない。といっても、決してボンド氏のように中年スケベの目ではない、あれを碧眼というのだろう。

そのイカシたドレイク氏、必要なとき以外はめったに拳銃を持たず、いつも丸腰である。ところがレミントンの大型シェーバーと、ドレイク氏らしからぬ、いやな飾りの付いたライターと５・６本の鉛筆だけはいつも持っている。(マニアには、ちょっと淋しいがここが本格派)

このシェーバー、イキなイギリス紳士の身だしなみの為ではない。上に付いている２つのカッターカバーを開けると、中がなんと超小型のテープレコーダーとは恐れいった。それに不経済な電池を使わず、電気カミソリらしくＡＣ電源に差し込んで使用するとこなんぞは、これまたニクイネ。

ライターはカメラ、マイクロフィルムは鉛筆の中、ライターカメラは、もう使い古された小道具であるが、トラベルウオッチと組合わせると、タイマー付きの自動カメラに早変りするとこが嬉しい。留守中これをホテルの部屋に置いておけば、招かれざるお客達のスナップフォートが出来上がるという次第。そしてこのカメラ、タイプライターの中に組込んでそのキーの一つに接続し、スパイ達の顔写真とリストを造り上げてしまった事もあった。

先日も、折りたたみのつり竿とトランジスターラジオを持ってブラリと出掛けたドレイク氏、つり竿のグリップの部分を外して、これをブームの横に付け、ブームの中にはＣＯ$_2$ボンベが１本、その後ろにゴムキャップ。これがなんとスコープ付きの単発ガス銃に早変り。銃身はブームをそのまま使っているので、かなり大口径である。何を撃つのかと見ていると、リールのセンターを抜き取って、これに真直ぐの針を付けて日指す家の窓枠に撃ち込んだ。しかし何事も起らない。

そして、今迄シャンソンが流れていたトランジスターラジオのダイアルを廻す、するとどうだろう、その民家の中での話し声が手に取るように聞えてくる。撃ち込んだリールのセンターは、超小型のワイヤーレスマイクだったのだ。

これだけ小道具に凝りながらも、それに振り廻されることなく、スパイ達のヒューマニティー迄も画き出しているものは、他にその類を見ない。そして物語の面白さ、これこそスパイＴＶ映画の本格派であった。

## アイ・スパイ

またまた、スパイ物が一つ、２月７日の金曜日から初まった。題名はそのものズバリの「アイ・スパイ」

主人公は二人、世界的なアマチュアテニスの選手であるケリー・ロビンソン(ロバート・カルプ)と、もとオックスフォードの特待生で、バスケットとフットボール選手で、今は彼のトレーナーとして世界各地を一緒に旅行している、黒人のスコットにビル・コスビー・

実はこの二人、本職の"ＣＩＡ"のスパイなのであるが、他のスパイと違って、もう一つの職業をカムフラージュビジネスとして持っているのではなく、もともと優れたスポーツ選手であり、今でもアマチュア活動を続けている。元来スパイという職業には、秀れた頭脳と明確なる判断力、そして素早い行動性と、極端なまでに発達した運動神経とタフネスな体が要求されるが、学生時代から万能選手である彼等には、うって付けの職業とも云える。このあたりの設定は、なかなかニクイ。

二人はラケットと拳銃をうまく使い分け、まさに、"二足のワラジ"を完全にはきこなした感じで、そのタイトルも　初めテニスをしているシルエットが現われ、腰を落してふり向いた瞬間にラケットがコルトコマンダーに早変りして「Ｉ・ＳＰＹ」のタイトルが現われるところなどは、これまたモンクナシ。ちゃんと、道底をスライドさせてくれるゴランアレ。

使う拳銃はコルトのコマンダーとワルサーＰ－38で、銃身の短い"ゲシュタポタイプ"二丁使っているところをみると、コマンダーの方も、Ｐ－38と同じ９㎜のルガー口径のものを使っていると思われる。

ショルダーホルスターも、抜き易くしておかなければいけないので、アップサイドダウンタイプを使い、グリップを下に、銃口が斜め上に来るようにして吊しているので、大型の自動拳銃であっても、グリップを把んで手前に引っぱるだけで、スポンと抜けてくれる。

そして、その拳銃もソロ達のようにＳＦばりのものが登場したりする事はなく、やたらと振り廻したりはせず、弾がなくなってもどこかの国のアクション映画のように、自分のミスを拳銃になすりつけて持っている拳銃を投げ付けてしまうような事はしないし、取り上げられる時以外は大事に扱ってくれるところなんぞは、その拳銃になり変ってお礼を云いたいぐらいである。

いくら好きなものでも、所かまわずやたらとブッパナスのは、あまりはた目の良いものではない。何事によらず、こちらが好きだからと云って、意味もなしにやたらと見せ付けられたのでは正に興ざめである。(誤解しないでおくれョ、拳銃のはなしだ)

この点では、ガンマニヤにお奨め出来るスパイアクションである。

そのロケ地も東洋が中心で、１・２回は香港、３回目からは東京を中心に、その舞台が転開する。横浜方面や高崎の観音様の前でもロケされたが、最近外国映画の日本における市場はばかにならず、可成りの興業収益が上がるのを考慮して"007"を筆頭にいろいろなスパイアクションのロケ隊が来日するが、こういったものを日本でロケする場合は、よほど注意してそのシノプシスを作っておかないと、その主人公が日本人を馬鹿扱いした荒唐無形のスーパーマンに終ってしまい、大事な日本のファンをガッカリさせてしまう結果になりやすいので、せめて、フジヤマ、ゲイシャ、テンプラ、スキヤキ、サムライ、カタナにニンジツ、カラテ。これだけは注意して取り入れるよう、異人さん達にお願いしておきたい。

東京滞在中のアイ・スパイ日本ロケスタッフが、２月10日ＭＧＣボンドショップを訪問、ＳＷセンチニアル、コルトゲバメントを始め、ブローニング、ＰＰＫ、チーフスペシャルと始んどのＭＧＣ製品を購入、今后の撮影用として使用する由、アイスパイに於けるＭＧＣ製品活躍が期待されます。

## 照門からみたスクリーン
## “地獄へ道づれ”

。

もう何度テレビでおなじみの、0011／ナポレオンソロの、「罠を張れ」や「消された顔」に続く、劇場用映画シリーズ第3弾として製作されたもので、キャストもロバート・ボーンにデビット・マッカラム、ウェイバリー部長にはレオ・G・キャロルといった、これまたおなじみの面々。

それに加えて、「シンシナティ・キッド」で好演したリップ・トレーン、最近では「グレートレース」にも出演した、テレビ映画「マンハッタンスキャンダル」でナイトクラブのチャールストンダンサーのヒンキー・ピンカム役のドロシー・プロバインらが共演している。

さてこの映画のお話は、アメリカの民間化学工業会社で開発されたＢＧ－30という戦斗意欲喪失ガスの発表会が、ニュージャージーの米軍化学研究所で行われた。

当日招かれた関係者の中に、コンツェルンの多角経営の一つとして化学薬品会社をも経営しているらしいといわれる、自から“アレキサンダー”と名乗る謎の男がいた。

この男が手下を使って、このＢＧ－30ガスなる新兵器？を盗み出した所から始まり、おなじみアンクルの出動となるのだが、ストーリーやエピソードのほうは映画雑誌にお任せすることにして、まずは“照門から見たスクリーン”と参りましょう。

映画が始まるやいなや、海坊主のようなツルッパゲ頭をした見アラビヤ系の男がフォードのマイクロバンを運転して研究所へ侵入するのだが、後から追って来た２人のＭＰと渡り合うシーンで、ＭＰの持っていたトンプソンの1928Ａ１をバリバリ撃つ、その排莢口からは黄色く光った薬莢が跳出されるのが良く見える。

男は警備員を倒して、無事？研究所内に車を乗り入れて、マイクロバンの中に積んだ催涙ガスを放射して所内を混乱させてしまい、その際にボスのアレキサンダーがＢＧ－30をまんまと盗み出してしまう。

この映画には、007シリーズに比べればその規模こそ小さいが、荒唐無稽に近い、いろいろな小道具が手を変え品を変えて登場するのだが、銃だけはＳＦばりのヘンナテッポウは現われなかった。

0011/ Naporeon Solo.

“地獄へ道づれ”

銃器の話といえば、ソロシリーズには無くてはならない“アンクルタイプスペシャル”。

今回はモーゼルの1910のほうは使わず、もっぱらＰ－38専門に使用していた。

ソロとイリヤがアレキサンダーを追って、アテネの近くにある石切場で、その手下どもと一戦あい交えるシーンで黒い65年型のプリムスのセダンから降りた二人が並んでＰ－38のアンクルタイプをポコポコ連射する。ソロのほうは途中で一回不発を起こし、二回目の不発の時には、もう撃つのをやめてしまった。イリヤのＰ－38は撃ち始めからどうも調子が悪く、再三スライドを引っぱって不発弾を抜いては撃ち引いては撃ち、いやもうソワ忙しいこと。これが演技でないから素晴しい迫力（断じて皮肉ではない、なんでビジュール同人がアンクルタイプをけなすものか、考えてもみたまえ）ガスレコイルのステージガンのみが造り出せる素晴しい不発である。

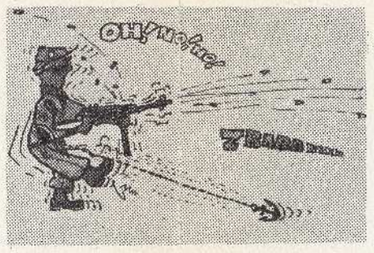
もともとステージガンのブローバックは、調子を出すのがむずかしく、Ｐ－38やガバメントのようなショートレコイルのものは、ブローバックタイプに改造しなければ空包作動しない。ましてアンクルタイプのような、エキステンションバレルを付けるとなると、なおさらその調子が出にくいものだ。洋の東西を問わず、撮影というものは、一つのシーンを撮る前に、何回もドラリハやカメリハ（カツドウヤことばですぞ）を繰りかえしてから、ハイ本番といく、ましてや調子の悪いステージガンを使うシーンなどは、同じものを何カットか撮っておき、一番調子が良くドンパチいったフィルムを使うのだが、このシーンで、こんなカットを使ったのは、一緒に撮った他のフィルムは、もっとひどかったのだろうと想像する。

こんな時に一番ドヤされてみじめな目にあうのは、監督や美術さんからどだい無理なテッポウを作れといわれて、さからい切れずに苦労したステージガン・スミッサー達である。諸君達も大枚四百両を出してこの映画を見たのなら、このシーンだけは、良く見ていただきたかったよ。

このフィルムは、苦労の割には酬われない小道具屋が、涙なしには見られない良き映画でありました、ホント。

# あなただけに教えるページ

カタログの構造説明図には、各部品の横に、その名称と一緒に、その部品がどういう働きをするかという説明を記す場合がある。しかし、これはその部品が他の銃のそれに比べて多少違った形状であったり、従来のものと違った運動をしてその役割を果す場合や、その銃独特の全く新しい部品であり、メーカーが特にその部品の機能を説明する必要がある場合だけに限られているようである。



元来、説明書やカタログといったものは、その使用者を対照として編集されているので、海外から苦労して取り寄せたりする拳銃のカタログを読んでも、その専門家ならともかく、マニアの方々には特別に説明のない部品の働きを理解するのに、辞書片手に時間をかけ、専門書を参考にしてカタログを読む方は少なく、たいがいの方は、手近な日本語の雑誌の中に載っている機構説明を参考に独自（？）な解訳をなさっておられる方が多い（失礼ながら事実である）

オーソドックスな機構である場合はそれでも良いのだが、特にスペインの“スター”のM－45や、チェッコのスチェッキンのように、セミオートの拳銃でありながら、サムセレクターをスイッチするだけで、フルオートとしても作動するといった特殊な機構を持っている場合の、ディスコネクターの役割りを間違って解訳しておられる方がある。それは、セミオートをフルオートにスイッチするには、自動式のスライドが後退する時に、そのスライド又はそれに連結した部品がコネクターを押し下げて、撃発の直後に指で引かれたままになっている引金とシアーの結合を断ち切ってしまう働きをする部品、つまりディスコネクターを、ボルトが後退してもその結合を解いてしまわないようにすればよい、とある雑誌に載っていたのが原因である。

確にその通りであるが、これは、セミオートシステムの銃のディスコネクターが故障して、その結合を解かなくなった場合に起る連続発射の状態であって、けっして、ノーマルなフルオートシステムではない。おそらく、この解説をしたのは、自分のライフルが射場でこのような故障を起した経験から、早のみこみをなさったのでしょう。

それこそ、こんな機構の銃を造り上げて射とうものなら、回転は非常に速く、その音は、オンボロ２サイクルエンジンのごとくただブーブーホエるだけ、正に「１．２半と気をしずめ、引金シボルもむなしくや、銃口はげしくハネ上り、弾着いずこや我知らず」などと酒落てもおれず、ただ弾頭をあたりかまわずまきちらして、はてわ射友にドヤサレこずかれて、その先生は、はじをかくのがせきの山である。

この様な場合、確にトントントンと３～４発は連続して発射されるが、かならずそれっきりで、何発目かには不発で終ってしまうはずである。このように、ディスコネクターだけをセレクトして、セミオートとフルオートに出来る機構を持ったものは、ハンマーを持たず、固定又は半固定の撃針を持つボルトを前進させて、送り込んだ瞬間に撃発してしまう機構を持ったサブマシンガンに限られている。

ライフルや拳銃の場合は、前記のような機構では非常に不安定な撃発より出来ないので、この機構を採用しているものはなく、フルオートにした場合、後退したボルトがハンマーを起こし、再び前進して完全に閉鎖しきった瞬間に、セレクターがコネクターとシアーを押してハンマーを落し、撃発する。つまり、ボルトよりハンマーが一瞬遅れて落るので、この瞬間にはボルトが完全に閉鎖されているので、安全かつ安定した撃発が保たれる。

これは、重量の大きいボルトと一緒に、軽い撃鉄や撃針が追って来ても、送り込まれた実包の雷管を完全に発火させるだけの撃力は持っていないからである。

中には、モスバーグやレイジングのように、ボルトとほぼ同量の直進する撃鉄を持っているものは、立派に連続発射出来るものがある。この場合は両者が同時に移動はするのだが、ボルトが停止した時に、後のハンマーは、その重量だけのしょう撃をボルトに与え、同重量と仮定したボルトは、その半分のしょう撃力を雷管に伝える事は出来るからである。

又、この機構の利点として、拳銃のように短銃身であるために装薬量の割に軽いボルトを持っている場合のフルオートは、非常に回転（発射速度）が早く、従ってその命中率も非常に悪く、不経済な場合は、セレクターを調節して、ボルトが閉鎖してから、撃鉄が落ちる迄のタイムラッグを長くする事により、その回転速度を落して、発射時に於ける銃の安定性を高める事も出来る。

不見識な愛好者から、ガバメント45のニセモノ呼ばわりされている、スペイン製の“スター”M－45などは、この利点を利用して、二段に調節出来るセレクターを持ち、フルオート時の発射弾数を選択出来る点などは、拳銃自体の性能は別として、非常に面白いと思う。

これから皆さんも、新しいカタログを入手した時には、インスタントな覚え方をしないで、手間を掛けてこそ、大きな楽しみがわいてくるのではないだろうか。

# スタッフ紹介

井部　弘

| | | | |
|---|---|---|---|
| 年令 | ２０才 | 体重 | ５４kg |
| 所属 | 技術部 | 身長 | １５９cm |
| 勤続年数 | ２年 | 趣味 | モデルガンコレクション |
| 出身地 | 名古屋市 | | |

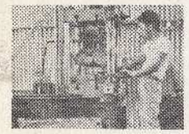
調子イイネとベーヤン"

大名古屋のある工業高校を一昨年、優秀な成績で卒業し、卒業式のあくる日はもうＭＧＣに素飛んで来て仕事をし始めたという、なんだかＭＧＣの魅力に取付かれた様な人、というよりも、ＭＧＣのモデルガンの魅力に取付かれた男、といった方がガンマニアの井部君には、ぴったりかもしれません。

今、会社での彼は製作部に携わり、ヤスリによる部品加工はもとより、機械工作の面では、その道のオーソリティーとして、学生時代に鍛えた腕をフルに活用して、その自信に満ちた仕事振りは定評あるところです。

一方、井部君（通称ベーヤン）は、大変オシャレ、"アイビー・ルック"しかり"コンチネンタル・ルック"又しかり、さしずめ"五月の蠅"のごときスタイルといったところ。

最近のベーヤンは、"ジ・アニマルズ"のレコード等を良く聞いている様です。



加藤　清二

| | | | |
|---|---|---|---|
| 年令 | ２５才 | 体重 | ５７kg |
| 所属 | ダイカスト部 | 身長 | １５９cm |
| 勤続年数 | ２年 | 趣味 | 音楽鑑賞 |
| 出身地 | 仙台市 | | |

"暑い暑いの加藤さん"

加藤さんに始めて会った人が必ず漏す言葉は、「男らしい好人物ですね」の一言。それもその筈、髭が濃くて体格もいい、ちょっとした男前。少しの事ではビクともしないし、話をしていても胸の中がスカッとする様なさばさばした人である。

ダイカスティングの技能者である加藤さんの出現により、ブローニング、あるいはセンチニアルにしても、外観・機構・操作に新らしいアイデアを不断に入れ、著しい進歩をしたにもかかわらず、モデルガンとしては、御求め易い値段となったのは、風にも負ず、雨にも負ず、夏の暑さには塩をなめなめ頑張った、加藤さんの得がたい、影の力があったのです。又、家へ帰れば、しんみりとムード・ミュージックに聞きほれ、グラスを傾むける一面もあるようです。

# クイズのお託び

"ビジュール"1.2号及び"ガン"誌に記載されました"ボンドショップ開店記念ＭＧＣクイズ"に、多数御応募下さいまして有難う御在いました。

これについて「はなはだ不明確で……」「ビジュールとガン誌との間にくい違いがあって……」というおしかりを受け、深く反省するとともに、お託び申し上げる次第です。

今回のクイズにつきましては、クイズ全応募者中より厳選し、300名様に"0011ナポレオン・ソロ"シリーズ、"地獄へ道づれ"の招待券をもちまして、誠に勝手ながら賞品に変えさせていただきたいと存じます。

又、６名の全正解者及び、数十名もの１．２問のみの失敗者の方々に対して敬意を表する次第です。

同時に、１人30通もの解答を寄せられた方などもいらっしゃったりして、この世の"せちがらさ"をいやという程、みせつけられた感さえいたし、誠に遺憾に存じます。

尽きましては、次回のクイズより、お手持のＭＧＣ製品１丁につき、1枚の解答権（つまり５丁ＭＧＣ製品を所有している方は５枚の解答権）を等と思案している次第です。

尚、今回のごとき事は今後絶体にないと確信しておりますので、次回よりは、尚一層の御応募と御支援をお願い申し上げます。

○次回クイズ第四号に掲載
御期待下さい。

特別賞

高松市　石川憲人　　長崎市　中原祐介
千葉県山武郡　飯田康博　　以上３名様

練馬区　大塚　誠　　新宿区　石川和正
文京区　中村達朗　　品川区　田中佳夫
太田区　松本　堯　　府中市　木村恵
調布市　原　治　　以上東京都
大阪市都島区　清水孝雄　　大阪市住吉区
植木利治　　大阪市豊中市　篠原靖彦
福岡県福岡市　山中克彦　　福岡県福岡市
香月宏　　福岡県福岡市　八尾敏則
京都市左京区　曾田正夫　　京都市中京区
生田篤也　　静岡県静岡市　中島和男
静岡県藤枝市　池谷立美　　山口県防府市
田辺長雄　　福島県磐城市　石井正二
宮城県仙台市　王道正義　　石川県金沢市
石田平修　　山形県村山市　藤橋忠悟
長野県松本市　吉村夏樹　　名古屋市南区
清水忠義　　北海道札幌市　佐藤寿男

以上25名様他275名の方々に賞品をお送り致しました。

# 編集後記

ナイターが始まり、また野球マニヤとガンマニヤが対立する時期がやって来た。

我がナインの中でも「野球は好きだ、しかしそれだけが総てじゃない。ナイターのために、他の楽しみまで犠牲にするとはけしからん」と、"コンバット"をカラカサ番組に廻したテレビ局をうらむ者も出る始末。さすがはMGC・Eagles、よくぞGUNを忘れないでいてくれた。

そのカラカサへの不満が手伝ってか、最近社内でビジェールのステージガン特集を企画せよとの意見しきり。有難うよEagles。

T. Z.

のんびりと　昼食をすまし、ボンドショップに帰ってみると、社長が検挙されたとの放送を聞いたとやらで、店のものがさわいでいた。……の夕刊にでかでかと報道されていた。それも最も権威のある新聞にだ！P38等任意提出したにもかかわらず、どこからどう取材したのか、単にスッパ抜きのためか、自発的に提出した我々を検挙したとか書きたてて犯罪者よばわり。マスコミの無責任、出鱈目には驚くばかり。正しくものを書くことの重大さを痛感した。そして、真剣にビジェールの編集にとりくんだ。

大石浩行

いつもビジェールの原稿を書く時は、どういう巡り合はせか知らないが、大体において多忙な時が多いようだ。本号では特にいろんな出来事が、MGCの内外に起き、私自身も、今回の経験がいろいろな意味で、今後の大きな教訓となった。

そして、3号の校正も終り、以前に描いたスパンドウ製のパラベラムP－08ピストルの表紙を、復雑な気持で見かえしているのが、現在の私である。

小林太三

ビジェール3号、大変遅れて申し訳ありません。

次号のスパイ特集に追いまくられながらも、どうにか3号を校了にして、ほっと一息。振り返って見れば、2月に始まった3号の編集が途中いろいろな事があって完成したのが5月、全くの長道中だった。秋には愈々P－38の発売も決定した事だし、編集部もうかうかしていられない。スパイ特集で名誉挽回すべく大いに張切ろう。

岡　直哉


**お　く　付**

〔ビジェール〕　3号
昭和41年3月1日発行
（奇数月1回1日発行）
発行人　神保　勉
編　集　MGC編集部
執　筆　ビジェール同人
印刷所　株式会社　大生社


## 表紙の言葉

2年前にニューヨークで見た1934年製のスパンドウルガー、ワシントンのハンターロッジに1丁、バークローのデビットの店に1丁、あとは誰か知らないが、アメリカ国内でコレクトされているのはこの3丁だけだと云うことである。

今回の表紙は3度目の正直とやらで、マトモに拳銃をというので選んだのが、この"スパンドウ"の08。2年前を思い出しながら画いたのだが、使い込んだスチールの肌の色がなかなか出ない。なんとかしてケント紙にガンブルーは乗らないもんかね。

● "Visier"友の会発足のお知らせ、ビジェールの発刊に際しファンクラブが発足致しました。
● 定期購読（入会希望者）
会費1ヶ月　50.－　1ヶ年　500.－
● 特典）話題の映画の招待券をお送りし、その他種々の催し物にご招待致します。